



石川県高等学校 「学びの力」

向上アクションプラン



石川県教育委員会

はじめに

石川県教育委員会では、平成23年に「石川の教育振興基本計画」を策定し、国際化や科学技術の進展、産業や経済構造の高度化、価値観やライフスタイルの多様化など、社会の急速な変化に対応するため、「自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、未来を切り拓こうとする気概あふれる積極果敢な人づくり」を目指して、様々な施策に取り組んでまいりました。その中で、高等学校についても、生徒の個性や進路希望等を踏まえ、実態に即した教育課程の編成・運用に努めると同時に、単位制や総合学科、中高一貫教育等の活用など、特色ある学校づくりに向けて努めてきました。

しかしながら、社会情勢の変化は予想以上にスピードが速く、高校生を取り巻く状況も大きく変化しています。加えて、進学率が極めて高く国民的教育機関となっている状況を踏まえると、多様な高等学校の在り方を前提とした教育の質の確保を図る必要があります。さらに、従来型の授業では、必ずしも生徒一人ひとりの学力を最大限に伸ばしているとは言えず、教え育むべき学力の達成目標やその指導方法についての教員間での共通理解が十分に行われていないとの指摘もされています。

そこで、県教育委員会としましては、本県高校生の学力、進路の多様化に的確に対応し、学校経営を組織的に行うため、「高等学校『学びの力』向上アクションプラン」を策定いたしました。

このアクションプランの中で、目指すべき生徒像を「自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、心身ともにタフな生徒」と設定し、校種の特性や生徒の学力、希望する進路などに応じたきめ細かい学力向上策を推し進め、全国的にも良好な学力水準にある本県小・中学生の能力・可能性をさらに伸ばさせ、保護者や産業界をはじめとした社会の期待に応えられるよう、高校教育の質の向上を目指してまいります。

「^{もんし}聞思して、^{ちりよ}遅慮することなかれ」という言葉があります。人生の拠り所となる大切な言葉を聞き、自らの問題として懸命に考えつつも、ためらうことなく前進することの大切さを表したこの言葉は、教育を考えるにあたって、意義深い言葉であります。「そもそも、我々は学校で何を教えるのか」という根源的な問いを、絶えず自分に問いかけているか、そして、教育の中身を吟味した上、新しい教育方法を試みようとする姿勢を持ち続けているか、教育に携わるものは常に自覚しなければなりません。

このアクションプランが目指す「心身ともにタフな生徒」の育成に向けて、本県全ての県立高校及び教職員が一体となり、真に教えるべき内容や効果的な指導法を検討し、着実に実践していくことで、保護者、県民の皆様へ信頼される教育の実現に努めてまいります。

目次

はじめに	
アクションプラン策定の背景・現状	2
目指すべき生徒像	3
石川県高等学校「学びの力」向上アクションプランの体系	4

目標1 一人ひとりの資質・能力を高め、社会の変化に対応できる実践力を育む教育の推進

- ① 社会活動を行う上で共通に身に付けるべき資質・能力の育成
 - ア. 生徒の資質・能力と学習到達度に応じた学力の質を確保する取組 6
 - イ. 卒業後の社会で必要とされる資質・能力の育成 10
- ② 学校のタイプや多様な進路に応じたタフな学力を育む教育の推進
 - ア. 学校の特性に応じて更なる高みを目指した取組の充実 11
 - イ. 時代のニーズに呼応した実践的な産業教育の充実 11

目標2 未来への飛躍を実現する人材の育成

- ① 地域の活性化に貢献できる人材の育成
 - ア. 地域社会の一員として主体的に参加する態度やふるさと愛の伸長 13
 - イ. 地域に活力を与える企画力を備えた人材の育成 13
- ② イノベーションを担う人材の育成
 - ア. 最先端の科学分野で活躍しようとする意欲や科学的スキルの獲得 15
 - イ. 人文分野での活躍を志す人材の育成 16
- ③ 世界に羽ばたくグローバル人材の育成
 - ア. 幅広い教養や国際的な視野の獲得 17
 - イ. 英語コミュニケーション能力の育成 17

目標3 教員の資質・能力や学校の経営力の向上 19

- ① 教員の専門性を高める研修の推進
- ② 組織的・学校経営の推進
- ③ 教員の視野を拡げる取組の推進

目標4 質の高い学びを実現する教育環境の整備 21

- ① 新たな学びに対応した評価システムの構築
- ② 新たな学びを実現する学習環境の整備
- ③ 産業構造や技術革新に対応できる高校の環境整備

Q & A 22

アクションプラン策定推進委員会名簿 24

- 【資料】 ● 石川県高等学校「学びの力」向上アクションプラン全体構想（概要版）… 26
- 学力スタンダードの概要
 - 指導計画書（学力スタンダード）の解説
 - 「学力スタンダード」ガイドライン抜粋

アクションプラン策定の背景・現状

グローバル化や情報化の進展などにより世界全体が急速に変化する中で、少子高齢化、また、それに伴う生産年齢人口の減少、あるいは首都圏への人口一極集中による地方の過疎化の進行など、今日の日本はかつて経験したことのない課題に直面しています。

本県においても、少子化が進行する中、中学卒業生の高等学校進学率は現在99%前後で推移しており、多様な生徒の高等学校での受け入れが進んでいます。

一方、世界的なグローバル化の流れは本県の地域経済にも影響を及ぼし、地元中小企業や観光業等においてもグローバルな展開が不可欠な状況となる中、高校卒業者に対して社会が求める役割は多様化しています。

また、近年の科学技術の進歩は産業構造にも変化を及ぼし、遠くない将来、人間の仕事が機械やロボットに置き換わり、多くの若者が現在にはない仕事に就くことになるなどの見方もあり、将来を見通すことが非常に困難な時代とも言えます。

このような中であって、将来の社会を支える若者一人ひとりが、それぞれの能力・個性を開花させ人生を豊かにするとともに、自立し、最大限能力を発揮しながら、社会に参画・貢献していくことが強く求められています。

しかしながら、中学校卒業生のほぼ全てが高等学校に進学する中では、これまでの教員個々の力に頼る指導では限界があり、卒業後の進路の多様性や、校種の特性、各学校の抱える課題を踏まえたうえで、学校をあげて生徒一人ひとりの学習意欲を高め、社会で生きていくために必要となる力や社会の発展に貢献する力を共通に身に付けられるようにすることが最も重要です。

こうした課題に対応するため、社会で必要とされる資質・能力を高め、実社会との様々な関わりの中で未来への飛躍を実現する人材の育成に向け、行動指針「石川県高等学校『学びの力』向上アクションプラン」を策定することとしました。

目指すべき生徒像

自ら学び、課題を見付け、 解決できる力を身に付けた、 心身ともにタフな生徒

現行学習指導要領においては、知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指しており、本県においても、その実現に向けて取組を進めているところです。また、生徒が主体性を持って多様な人々と協力して問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）を取り入れた授業改善に取り組もうとする動きも見受けられます。

しかしながら、多くの高等学校では、知識の暗記・再生に偏りがちで、思考力・判断力・表現力や、主体性を持って多様な人々と協働する態度など、社会で必要とされる力が十分に育成されていないという指摘もあります。

そこで、本プランでは、目指すべき生徒像を、「自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、心身ともにタフな生徒」と設定しました。

「自ら学び、課題を見付け、解決できる力」については、高等学校教育を通じて学ぶ「知識・技能」や、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）を身に付けて、自ら課題を発見しその解決に向けて探究し表現する力（思考力・判断力・表現力）と考えています。

また、「心身ともにタフ」については、解決することが難しい課題や困難な状況にあっても、へこたれず立ち向かい打ち克つことができる姿をイメージしています。

本県では、これらの力や姿勢を身に付けた生徒の育成を目指します。

石川県高等学校「学びの力」向上アクションプランの体系

目指す
生徒像

自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、
心身ともにタフな生徒

目 標

目標
1

一人ひとりの資質・能力を高め、
社会の変化に対応できる実践力を育む
教育の推進

学力の三要素として捉えられている「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」及び「主体的に学習に取り組む態度」を基盤とし、生徒一人ひとりの学力の、質の確保に努めます。

目標
2

未来への飛躍を実現する人材の育成

創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力、英語運用能力などを培い、変化する社会の中で新たな価値を創出し、社会の各分野を牽引していく人材を育成します。

目標
3

教員の資質・能力や学校の経営力の向上

教員の意識改革や資質・能力の向上に向け教員研修を充実強化するとともに、様々な課題に対応するため、組織的な学校経営への転換を図ります。

目標
4

質の高い学びを実現する教育環境の整備

学力向上に向けた評価システムや施設・設備など、質の高い学びを実現する教育環境を整備します。

施策等の方針

目標 1

①社会活動を行う上で共通に身に付けるべき資質・能力の育成

- ア. 生徒の資質・能力と学習到達度に応じた学力の質を確保する取組
- イ. 卒業後の社会で必要とされる資質・能力の育成

②学校のタイプや多様な進路に応じたタフな学力を育む教育の推進

- ア. 学校の特性に応じて更なる高みを目指した取組の充実
- イ. 時代のニーズに呼応した実践的な産業教育の充実

目標 2

①地域の活性化に貢献できる人材の育成

- ア. 地域社会の一員として主体的に参加する態度やふるさと愛の伸長
- イ. 地域に活力を与える企画力を備えた人材の育成

②イノベーションを担う人材の育成

- ア. 最先端の科学分野で活躍しようとする意欲や科学的スキルの獲得
- イ. 人文分野での活躍を志す人材の育成

③世界に羽ばたくグローバル人材の育成

- ア. 幅広い教養や国際的な視野の獲得
- イ. 英語コミュニケーション能力の育成

目標 3

①教員の専門性を高める研修の推進

②組織的学校経営の推進

③教員の視野を拓ける取組の推進

目標 4

①新たな学びに対応した評価システムの構築

②新たな学びを実現する学習環境の整備

③産業構造や技術革新に対応できる高校の環境整備

目標 1

一人ひとりの資質・能力を高め、社会の変化に対応できる実践力を育む教育の推進

現在の高等学校教育では、学習指導要領のもと、学力の三要素として捉えられている「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、及び「主体的に学習に取り組む態度」の育成を目指しています。

しかしながら、本県の高等学校では、「思考力・判断力・表現力等」と「主体的に学習に取り組む態度」を育む日々の指導について、まだまだ工夫改善が必要な状況にあります。また、論理的・批判的思考力やコミュニケーション能力など実社会で必要とされる資質・能力についても、教科指導の中で確実に育まれているとは言い切れません。

そこで、学力の三要素を基盤としつつ、多様化が一層進む社会において、自立した人間として他者と協働しながら新しい価値を創造する力など、生徒一人ひとりの資質・能力を高め、21世紀の社会を生き抜く実践力を育てていきます。

1

社会活動を行う上で共通に身に付けるべき資質・能力の育成

生徒の多様化が進み、高等学校を一括りに捉えることが難しくなっています。結果として、「高校教育に共通に求められるものは何か」ということが曖昧になってきており、社会・産業界から社会の一員として最低限必要な資質・能力を身に付けるべきとの指摘や、大学側から高等学校段階での学力を確実に身に付けるべきといった声があがっています。

これらの指摘を踏まえ、本県では学習指導要領で示される事柄を共通に身に付けるべき内容とし、その内容に関する学習の深さで生徒の多様化へ対応することとしました。この考えのもとで、学習の到達目標を定め、生徒の学習到達度を適切に把握するための仕組みを導入するなど、生徒が社会活動を行う上で共通に身に付けるべき資質・能力の育成を目指していきます。

共通性の確保

学習指導要領で示される内容により共通性を確保する。

多様化への対応

左記の内容に関する学習の深さで多様な生徒の実態に対応させる。

ア 生徒の資質・能力と学習到達度に応じた学力の質を確保する取組

本県の高等学校では、生徒の資質・能力に応じた目標設定のもと学習の深さを教員間で共有化することが徹底できていない場合があります。また、望ましい指導の手立てについても共有化されていないことが多いといった課題があります。

こうした課題に組織的に対応するため、「学習指導方針（スクールポリシー）」を定めた上で各校が生徒の目指すべき到達目標を設け、適切に到達状況をはかるとともに、望ましい指導の手立てを共有化するための「指導計画書（学力スタンダード）」の設定などを通じて、生徒一人ひとりの学力の質の確保に努めます。

(1) 学習指導方針（スクールポリシー）

生徒の実態に応じた到達目標や指導の手立てを考える際、教員個人の判断で決めてしまうようであれば、学校として教育の質を確保するという視点がぶれてしまいます。

地域の中での学校の位置づけ、地元産業界の要望、学校の強み・弱み、生徒・保護者の希望等、しっかりとした調査に基づいた学校の方向性を認識した上で、具体的な到達目標や指導の手立てを検討する必要があります。

これまで、県内の高等学校では校訓や校是を拠り所とし、教育目標を立てて学校運営を行ってきましたが、これらが日々の授業とどのような関わりがあるのか漠然としていることが多い状態でした。

そこで、各学校が組織的・計画的なリサーチ活動を実施し、それを基に学校として進むべき方向性や目指す生徒像を明らかにするとともに、授業づくりに向けた教員の行動指針を学習指導方針（スクールポリシー）として作成することにしました。このスクールポリシーを拠り所として、到達目標や指導の手立てを決めます。



校訓は質実剛健なんだけど、うちの学校らしい授業づくりはどうしたらいいんだろうか？



スクールポリシーに沿って授業づくりの方針を立てればいいんだね！

(2) 指導計画書（学力スタンダード）

各高校は、県教育委員会がサンプルとして提示する「学力スタンダード」ガイドラインを参考としながら、自校の学習指導方針（スクールポリシー）に基づいて指導計画書（学力スタンダード）を作成します。学力スタンダードを作成して終わりとしなないために、授業の進行管理に活用可能な日々の授業で使う書類とし、9ページで示す列構成の指導計画書として学力スタンダードを表現します。

現行の学習指導要領では、何を教えるかという学習の内容項目が記載されていますが、どこまで教え育むのかといった、学習の深さについては記述されていません。

結果として、のみこみの早い生徒集団と、努力を要する生徒集団とで、指導の手立ての違いを曖昧にしたまま授業を実施してしまうといったことが、課題となることがあります。

また、高等学校の教員は、おしなべて授業の指導法について語り合うことが少なく、個人的に指導ノウハウを模索しながら授業を進めることが多い状況です。結果として、同じ科目であっても、教員によって指導の手立てが異なり、授業の質は教員の力量任せになっていることもあります。指導力の高い教員が持っているノウハウを受け継ぐことや、互いの授業手法を出し合う中で新たな指導の手立てを見出すことが少ない現状です。

そこで、指導計画書として学力スタンダードを作成し、その中に学習指導要領の内容項目ごとに到達目標と指導の手立てを記載し、教員間で共通理解を図ることとしました。到達目標を記載することで「どこまで教え育むのか」について、指導の手立てを明文化することで生徒が「どのように学ぶのか」について共通理解を図ります。

何をどこまで教え育むのか
(学習の深さ)

「到達目標」

生徒はどのように学ぶのか
(学習の方法)

「指導の手立て」

共通理解

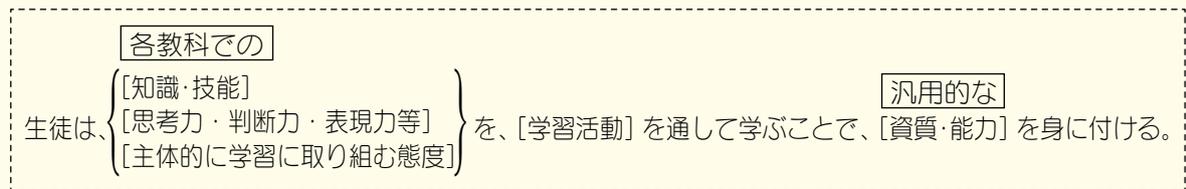
教科でどのような資質・能力を育むのか
(学習と資質・能力の関係)

このような教員間での目線合わせを行いながら各教員の持ち味を出すことで、生徒の学びの質を高め、学びが深まることを期待しています。そして、生徒にバックボーンとなる基礎学力が確実に身に付く授業が実現することを目指しています。

さらに、社会で必要となる資質・能力を踏まえた教科指導として、指導の手立て欄に、育む資質・能力を明記した学習活動を書くこととしました。

これは、学んだ教科の基礎的な知識・技能を活用しながら協働的に探究するような課題等に取り組む中で汎用的な資質・能力の育成を目指すものです。これまで日々の授業の中で思考力や主体的な学習態度を育む指導は行われてきましたが、教科指導において社会で必要とされる汎用的な資質・能力を明確に意識することは少ない状況でした。こうした学習活動は、各教科の知識・技能を定着させ、生徒の学習意欲を高める上でも効果的であると考えています。学力スタンダードに記載した各到達目標を達成することを最終目標とするのではなく、生徒の新しい能力や資質の育成を目指し、その獲得につながる学習活動として記載するものです。

このような学習活動には、下記の形式で、育む資質・能力を表現することとし、教科と資質・能力の関係を明記します。

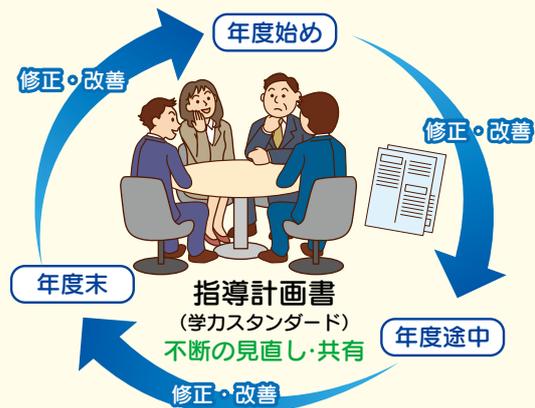


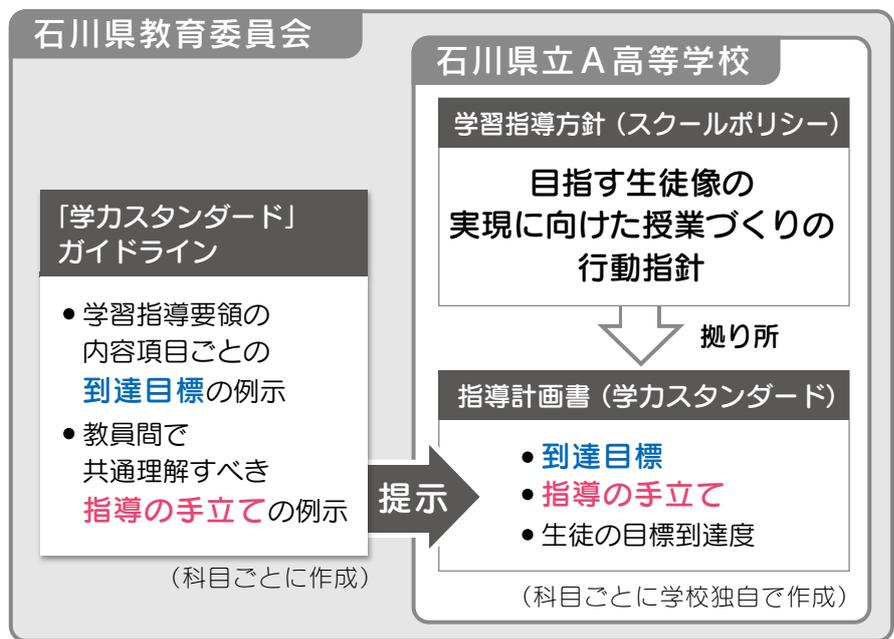
以上で示した学力スタンダードの意図するところは、教員の共通理解を図ることですが、加えて、日頃から各教員の指導に対する考え方を出し合い、授業の進め方について対話するきっかけづくりを行うことも大きなねらいとしています。

主観的な洞察や直観による指導法は、いわゆる暗黙知と呼ばれるもので、他者と共有することが難しいと言われています。これを学力スタンダードという形で形式知として表現しようとする、考えの衝突や不一致が起きますが、その衝突こそが、それまで当然視されてきたことへ疑問を抱き、新しい角度から理解し合うきっかけとなります。授業づくりについての日常的な対話が、形式知を学校全体に広め、かつ一人ひとりの教員の新しい暗黙知を生み出すことにつながります。

このことから、学力スタンダードを書き上げることがゴールではないことに気づくはずですが、対話によって教員間の思いを一つにし、教員個人の力量を高めることが最も大切なポイントです。

学力スタンダードの作成に当たっては、最初から100%の完成度を目指すのではなく、状況によっては60～70%の仕上がり状態でスタートさせるという意識も必要かもしれません。重要なことは、教員が対話する中で生徒の実態に応じた学校独自の特色ある学力スタンダードとなるよう改良し続けることです。これによって、学校としての継続的なカリキュラムマネジメントにつながっていきます。





各高校は、県教育委員会が作成したガイドラインを参考としながら、自校の学習指導方針(スクールポリシー)に基づいて指導計画書(学カスタンダード)を作成します。

各校の学カスタンダードで、生徒に**どこまで教え育むのか**、生徒は**どのように学ぶのか**、そして教科指導の中で育む**資質・能力**について共通理解を図ります。

学カスタンダードで教員の目線合わせを行い、記載された指導の手立てをベースとしながら各教員の工夫を上乘せして授業を実施します。

石川県立A高等学校 平成〇〇年度指導計画書 (学カスタンダード)

教科：数学 科目：数学Ⅰ

内容	具体的な 到達目標		指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)	予定月	実施日	授業で把握した目標到達度
	<基礎>レベル	<応用>レベル				
イ 二次関数の値の変化 (ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象で、注目している値 y を値 x の関数で表現し、x と y を関係づけることができ、y の最大値・最小値を予測する際に関数を活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事象から関数を使って課題を分析できる内容を問題として具体化し提案することができる。 	<p>【学習活動】 身近な事象に係る最大・最小を、関数を活用して追究する。協働学習の技法の一つであるジグソー法に取り組み、グループワークで問題を解決することを体験する。 (パフォーマンス課題)</p> <p>〈育む資質・能力〉 関数概念の理解を深め、関数の有用性を認識することを、関数を用いて学校生活に関したことを追究する活動を通して学び、自律的活動力、論理的思考力、課題発見力を身に付ける。</p>	5月 ↓ 6月	5月15日 5月18日	<p>二次関数の有用性を認識することについては、ほぼ全員達成した。</p> <p>「教えてもらってできる」という状態を抜け出し「自分たちの力で解決する」という実感を持った生徒が6割程度。次回の協働学習では…</p>
授業の進行順に記載						

学習指導要領の内容項目に沿って到達目標を記載しています。各到達目標は、生徒の到達レベルの上限を表すものではありません。あくまでも教員が共通理解するための目安であり、生徒は、到達目標を通過点として飛躍していくことを目指しています。

また、授業で把握した目標到達度を授業の進行とともに記入することとし、学カスタンダードで授業の進行管理を行います。

学カスタンダード策定・評価研究事業

先行実施校6校において、指導計画書(学カスタンダード)の合同検討会、先進校視察、学習指導方針(スクールポリシー)の作成に係る地域(企業・住民)や保護者へのリサーチを実施します。

また、全日制38校において県教育委員会が提示するガイドラインを参考としながら学カスタンダードを学年進行で作成します。

イ 卒業後の社会で必要とされる資質・能力の育成

個々人が直面する課題や社会の課題が一層複雑化し、一律の正解が必ずしも見いだせない社会では、学校で共通に習った知識や技能がそのままの形では使えません。獲得した知識・技能・態度等を総合的に利用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力や、職場や社会の中で多様な人々と共に仕事をしていくために必要な、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力などを身に付けることが求められています。

こうしたことに対応するため、協働型・探究型授業を実践し、生徒一人ひとりに 21 世紀をより良く生き抜くために必要な資質・能力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度を養います。

いしかわ探究スキル育成プロジェクト

教員が協働型・探究型授業スキルの向上を図ることで、生徒の論理的思考力・批判的思考力を育成し、生徒が深く思考する学習意欲の向上を図ります。学力スタンダード策定により、アクティブ・ラーニング等探究的な学習活動を積極的に取り入れていくことになるため、質の高いグループ学習の在り方など、授業改善をはじめとした取組を学校間で連携して推進します。

各学校での取組

- ・校内推進PTの設置
- ・合同研修会
- ・県外先進校視察
- ・研究授業
- ・合同セミナー準備協議会

連携の取組

- ・合同セミナー
各学校の取組を生かし、アクティブ・ラーニング等の探究学習を実践する。

探究基礎…論理的思考力

探究発展…批判的思考力



COLUMN

アクションプラン策定推進委員の意見の一部を紹介します！

アクティブ・ラーニングが流行りです。昨年 11 月の中教審に対する文部科学相からの諮問文には 4 回も登場し、各地でさまざまな研修会も行われています。ただ困ったことに、目的があいまいなままに取り組みされているケースもあるようです。いったいなぜ、何のために、アクティブ・ラーニングが求められているのでしょうか。

学校教育法第 30 条に示されている学力の三要素と、キャリアやキャリア教育についての中教審答申の定義を重ねて考えると、「**学力向上を図るためアクティブ・ラーニングに取り組むことでキャリア教育を推進する**」と言えるように思いますがどうでしょう。取り組む意味を共有すること、取り組みをつなぐこと。教育の現場には、この二つが欠かせません。

荒瀬 克己 委員

2

学校のタイプや多様な進路に応じたタフな学力を育む教育の推進

本県では、進学者が多い学校、就職者が多い学校、地域との繋がりが深い学校など、様々なタイプの高等学校があります。また、それぞれの学校で学ぶ生徒の進路も多様化していることから、これまで、学校の特性に応じた高みを目指した取組や、実践的な産業教育の充実等に取り組んできました。

今後はそれに加えて、急激な社会の変化に対応しながら、解決の難しい課題に主体的に立ち向かい、困難な状況に打ち克ってより良い解決の道を切り拓いていくような、タフな学力を育む教育をより一層推進します。

ア 学校の特性に応じて更なる高みを目指した取組の充実

一人ひとりの能力を伸ばす教育を推進するため、これまで大学や企業等の外部人材の活用や地域の小・中学校との連携など、学校ごとに様々な取組を実践してきました。また、タイプや特性の似た学校が合同で指導法を研究したり、生徒対象の合同セミナーを開催するなど、共通する課題に対応するための連携も始まっています。こうした学校間連携は、学校の垣根を越えた取組であり、効果も上がってきています。

今後も、各学校の特色ある学習活動を推進させるとともに、学校間連携による生徒・教員の切磋琢磨する機会を拡大し、生徒の学ぶ意欲の喚起や教員の指導力向上に向けた取組を推進します。

いしかわニュースーパーハイスクール（NSH）

文系・理系の牽引役となるコースの設置、思考力を高める学校設定科目の配置、大学・企業等からの特別講義、学校間連携による合同セミナーなどを通して、思考力・判断力・表現力等を備え、将来、国際社会でも活躍できるリーダー的人材の育成をより一層強化します。



地域交流による高等学校活性化事業

多様な進路ニーズを有する生徒が入学する比較的小規模な高等学校において、地域の小・中学校と連携し教育の継続性を持たせ、教員が集まって中学からの円滑な接続を図る教材開発や多様な生徒集団への指導方法の研究を行うなど、教員の授業力をより一層高め、生徒の意欲を引き出し、進路実現を図ります。

イ 時代のニーズに呼応した実践的な産業教育の充実

これまで専門高校等では、資格・検定試験の積極的な取得、長期の企業実習、高度技術者や社会人講師による指導などをとおして、実践的な産業教育の充実を図ってきました。

しかしながら、近年では、産業構造の変化や科学技術の進展等を背景に、新たな技術や分野に挑戦しようとする高いモチベーションをもち、自ら行動する力をもった職業人やグローバル化する企業に貢献できる人材の育成が求められるようになっていきます。

そこで今後は、従来から行われてきた実践的な産業教育を進めるとともに、地元企業や大学・研究機関等との連携のもと、新たな課題に挑戦する力や、グローバル化に対応できる力の育成等に取り組み、石川の食、ものづくり、くらし・経済を支える将来の専門的職業人の育成に努めます。

スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）

産業の動向等に対応した社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成について研究開発を行う学校をスーパープロフェッショナルハイスクールとして指定（文部科学省）します。

産業界で必要とされる知識・技能の高度化に対応するために、高等学校と大学・研究機関等との連携を強化し、将来の専門的職業人に必要な資質・能力を育成する教育プログラムの研究を推進します。



グローバル観光人材育成事業

「国際的な観光人材」、「グローバル化する企業に貢献できる人材」の育成を目標として、特色あるカリキュラムの開発、グローバルな視点を持った高度な資格取得、企業での実習・調査研究、海外の専門高校との交流などに取り組みます。また、商業教育で学ぶコミュニケーションスキルとしてのビジネス英語、情報処理、会計等の知識や技能を生かした実践を行い、グローバルビジネスに挑戦する姿勢や能力、起業家精神を育成します。



産業教育フェア

本県の産業教育を担う高等学校に対する理解と協力を促すとともに、中学校に進路選択のための判断材料を提供し、産業教育の一層の充実を図っています。

平成 28 年度に石川県で全国産業教育フェアが開催されます。専門高校が中心となり、各分野の専門技術を活かしたイベント等を生徒主体で企画・実施し、石川の産業教育を全国に発信します。



目標2

未来への飛躍を実現する人材の育成

生徒一人ひとりの普遍的な力をどう深めていくかという視点から、目標1に掲げる、生徒の資質・能力を高める取組を進める一方で、グローバル化の進展や社会全体の変化に対応し、社会とのつながりの中で、未来に向けてどう立ち向かっていくかという視点に立って、新たな価値を創造することのできる人材の育成が求められています。

そのためには、生徒一人ひとりの多様な個性・能力を最大限に伸ばし、社会の中で生かすことのできる取組を推進していくことが必要であり、こうした視点は、各分野の最先端の場のみならず、身近な地域社会の場においても必要です。

こうしたことに対応するため、地域の活性化に貢献できる人材、イノベーションを担う人材、世界に羽ばたくグローバル人材の育成を目標に掲げ、普段の教科指導を基本に据えながら、様々な体験活動を通して、創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力、英語運用能力などを培い、変化する社会の中で新たな価値を創出し、社会の各分野を牽引していく人材の育成を目指します。

1 地域の活性化に貢献できる人材の育成

県外に進学する学生のうち約4割がそのまま県外に就職するという状況の中、地域社会を支える人材の確保や育成が急務となっています。一人ひとりの生徒が主体性を持って学ぶことや働くことの意義を理解し、それぞれの職業観・勤労観を確立して、将来的に社会に貢献するために必要な資質・能力を培う必要があります。

これらを踏まえ、学校から社会への円滑な移行が行われるよう、地域社会の一員として主体的に参加する態度やふるさと愛を育み、地域に活力を与える人材の育成に努めます。

ア 地域社会の一員として主体的に参加する態度やふるさと愛の伸長

地域を活性化するには、ふるさとを知り、誇りを持って発信できる心豊かな人材が必要であり、地域と結びついた学習や、地域社会に主体的に参画する中で学び取っていく学習が大切です。

そこで、石川の産業・文化・自然を学ぶ授業や、本県の特長である「おもてなし」の精神を学ぶ授業などを、広く地域の方々や地元企業などの協力を得ながら推し進め、地域と関わることで、社会の一員として主体的に参画し貢献する意識や態度とともに、ふるさとを愛する心を養い、地域を支える人材育成を図ります。

イ 地域に活力を与える企画力を備えた人材の育成

産業構造の変化や技術革新等により企業は新しい人材に即戦力を求めており、社会人としての常識や人間性を含め、高校卒業後に社会で求められる役割が変化してきています。特に、与えられたことや指示されたことを忠実に実行するだけでなく、自らの考えや判断で直面する業務をより良く改善し発展させる力が求められています。これらに対応するには、社会というリアルな場面で探究し企画するなどの学習活動を積極的に取り入れることが重要です。

そこで、社会と関わる学習や、企画力やチャレンジ精神を高める学習を通じて教育の質の向上を図り、地域社会の活性化に主体的に寄与することのできる人材を育成します。

社会と関わる土曜学習事業

普通科高校において、学校内における知識技能の習得にとどまらず、フィールドワーク等、座学では行うことができない社会と関わる教育活動を実施します。日常生活や社会の中に問題を見出し、学校で学んだ知識を総動員して、解を導くことができる力を育成するとともに、県内企業や地域住民と接することで地域に親しみを持ち、大学等を卒業後、地元就職を積極的に考える人材の育成を図ります。

石川ふるさと学（産業・文化・自然等）の推進（石川版教科書「ふるさと石川」の活用）

石川版教科書『ふるさと石川』を総合的な学習の時間をはじめ様々な学習活動の中で活用し、石川の将来を担う高校生が、本県の自然や歴史、伝統文化はもちろんのこと、産業の現状や予測される未来の姿を把握することで、本県の素晴らしさを理解し、郷土を愛する心や誇りに思う心を培います。さらには将来にわたって石川の産業や伝統文化を維持・発展させ、また、発信者として幅広く活躍する人材の育成を図ります。



未来の職業人育成プロジェクト

職業に関する専門教育、特別支援教育における、先進的な教育活動への支援を通じて、職業教育の質の向上を図るとともに、企画力やチャレンジ精神を持ち、地域社会の活性化に主体的に寄与することのできる人材育成を図ります。

地域交流による高等学校活性化事業 ※再掲

地域貢献活動等を通して、地域との連携を強化し、地元で愛され必要とされる学校づくり、地域を支える人材育成を図ります。

「おもてなし」を学ぶ授業の推進

各学校が「おもてなし講座」を開催し、外部人材による講演会や生徒との意見交換等を通して、相手のことを気遣って行動する、いわゆる「おもてなし」の心への理解や、地域の人々と連携していくことの大切さを学ぶことにより、これからの社会に必要な、他者と協働しながら主体的に関わる力の育成を目指します。

COLUMN

アクションプラン策定推進委員の意見の一部を紹介します！

「おもてなし」の心には人への気遣いが含まれ、私の経験上、この人への気遣いはとても重要だと思います。企業のリーダーになっている方々は、誰にでもしっかりと気遣いができています。直接、表面には出さないけれど、本当に細かい気遣いが自然にできています。これは、人間の基本中の基本ではないかと思います。

水越 裕治 委員

2

イノベーションを担う人材の育成

将来の我が国を牽引する優れた才能や個性を有する生徒を支えるため、これまでもスーパーサイエンスハイスクール（SSH）やいしかわニュースーパーハイスクール（NSH）などを通じて先進的な教育を受ける機会を提供してきました。

しかし、近年の科学技術の進展等に伴い産業界に必要な専門知識や技術が高度化し、従来の産業分類を超えた複合的な産業が発展していることから、既存の見方や考え方にこだわらず、独創性を持って、新たな価値を創出することが求められています。

これらを踏まえ、自然科学や人文科学などの分野においてイノベーションを担う人材の育成に努めます。

ア 最先端の科学分野で活躍しようとする意欲や科学的スキルの獲得

SSHなど先進的な教育の推進や、優れた才能や個性を有する生徒に対してハイレベルな学習機会や切磋琢磨する場を提供することが重要です。

大学や研究機関、企業等との連携を通して、最先端の科学実験や大学の研究者による講義を行うなど、将来高度な知識・技能を身に付け、科学技術系分野を牽引する人材を育成します。

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）

科学技術・理科、数学教育を重点的に行う学校をスーパーサイエンスハイスクールとして指定（文部科学省）し、将来の国際的な科学技術系人材の育成のための取組を着実に推進するとともに、高大の接続の在り方について大学と連携した研究やカリキュラムの作成の研究等について推進しています。



いしかわ高校科学グランプリ

県内の科学好きの高校生が一堂に会し、競い合う場を設けることで、科学好きの裾野を広げ、トップ層の応用力や実践力を伸ばし、科学教育のレベルアップを図っています。優勝校は「科学の甲子園全国大会」に県代表として出場し、全国の高校生と競うことで更にレベルアップを図ります。

発展的科学研究実践事業

従来の実験の枠を超えて、最先端の研究や今日的な課題などにつながる科学実験や講演会等を実施することで、生徒の科学に対する興味関心を高め、主体的に学習に取り組む力を育成し、理科教育の充実を図ります。

京都大学連携事業

京都大学と連携し、科学技術に傑出した意欲・能力をもつ高校生に対する京都大学による専門講義・演習の提供や、京都大学の院生や学生による出前講座などの教育活動への支援を行います。また、京都大学のグローバルサイエンスキャンパス ELCAS（科学体系と創造性がクロスする知的卓越人材育成プログラム）に県内の高校生を派遣します。

イ 人文分野での活躍を志す人材の育成

人文系分野等においても、社会の変化や産業の動向等に対応するため、しっかりとした知識・技能を身に付けるとともに、豊かな発想力や自ら進んで課題に取り組む姿勢などを備えた、将来社会の第一線で活躍できる人材を育成する必要があります。

こうしたことに対応するため、先進的な事業や傑出した研究に触れることなどを通じて、今日的な課題に対する議論や新たな提案（里山里海、伝統工芸、食文化など）を自ら進んで行うクリエイティブな力を持った人材の育成を目指します。

ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業

優れた県内企業の社員との意見交換や、事業内容やサービス、職場環境等、様々な部門で見られる各企業の創造性を多角的に調べるなどを通して、クリエイティブに物事を考える視点を持つ人材の育成を図ります。また、地域に愛着を持ち、地元で就職するなど、地域貢献を積極的に考える若者の増加を目指します。



いしかわニュースーパーハイスクール（NSH） ※再掲

授業での質の高い思考活動や、高度な大学研究に触れる等、生徒に刺激を与える様々な活動を展開し、知的好奇心を高めます。これによって、自ら知識をつかみ取る学習姿勢や、高い志を維持しながらその実現に向けて挑戦する力を育みます。



COLUMN

アクションプラン策定推進委員の意見の一部を紹介します！

私は、人材を採用するかしないかは、コミュニケーション力、本当に深さを持って勉強したのか、深さを持って物事を考えられるかで判断します。加えて、チャレンジ力です。採用面接の最後に、予告無しに英語での自己紹介をしてもらったことがあります。仮に、英語が不得意であっても、どのようにしてその場を切り抜けるのかという力を見ている。

高瀬 敬士郎 委員

3

世界に羽ばたくグローバル人材の育成

グローバル化が加速する中で、ふるさとへの深い理解や愛着はもとより、日本の歴史と文化に対する深い教養を前提として、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けた人材が求められています。

これらを踏まえ、幅広い教養や視野を身に付け、英語によるコミュニケーション能力を併せ持つ、世界に羽ばたくグローバル人材の育成に努めます。

ア 幅広い教養や国際的な視野の獲得

グローバル化や情報化の進展などにより予想を超えたスピードで変化し多様化が一層進む社会を生き抜くためには、個人や社会の多様性を尊重しつつ、幅広い知識・教養と柔軟な思考力に基づいて新しい価値を創造し、他者と協働する能力等が求められています。

そこで、グローバルな社会課題、グローバルなビジネス課題の探究に向け、様々な外部連携・協力をを行うことにより、従来の教育活動の枠組みを拡げた取組を進めます。

イ 英語コミュニケーション能力の育成

グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は極めて重要であり、英語の基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成は重要な課題となっています。

そこで、グローバル社会において、文化的な背景や価値観の異なる人々と意見を交わし、協働するための英語によるコミュニケーションスキルを育成します。

いしかわニュースーパーハイスクール（NSH） ※再掲

留学生や外国語指導助手等との交流や海外研修などを通じて、異文化と直接触れ合い、意見を交換する機会を設け、主体的に行動するための資質を育成します。

また、国際化を進める国内の大学、企業、国際機関等と連携を図り、将来国際社会でも活躍できるリーダー的人材の育成に取り組むために、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進めます。



留学促進助成事業

原則1年間の海外留学を希望する県内の高校生に、留学経費を支援します。また、帰国した生徒には、国際的視野の涵養と留学機運の醸成を目的とした県主催の留学フェアにおいて、体験談を伝えてもらっています。

職業英会話力育成研究事業

県内の専門高校8校及び職業科目を開設する高校の生徒を対象に、県内企業の海外勤務経験者等を講師として各校に招いて講演会を行い、企業の海外展開の現状、就労環境の変化、求められる英語力等について理解を深めています。

また、日常会話や簡単な報告、連絡等ができるようにするとともに、基礎的な専門用語に習熟し、臆せずにコミュニケーションするための能力の定着を図るために、英語担当教員、専門教科教員及びALTが工業グループ、商業グループに分かれて教材及び指導・評価法を開発し、授業で活用しています。



英語指導力向上モデル事業

英語教育において、「読む」・「書く」に加え、「聞く」・「話す」も含めた4技能をバランスよく育成する観点から、生徒の英語力や学習状況を把握・分析し、その結果を指導に生かすことで、県内の英語教育を戦略的に改善する必要があります。

外部有識者や教員等による「英語力分析会議」を開催して、県内の高校生の英語力を分析し指導改善計画を策定するとともに、「英語指導力向上モデル校」を指定し、上記の4技能が適切に育成されるよう、新しい評価法を含めた実践研究を行います。

モデル校での研究成果については、公開授業やモデル校での取り組みをまとめた「模範授業DVD」を通して、4技能のバランスのよい育成についてのノウハウを県内の全ての高校で共有することとしています。

COLUMN

アクションプラン策定推進委員の意見の一部を紹介します！

グローバルな人材となるには、文化を含めて住んでいる街のこと地域のことをよく勉強していかなくてはいけないと思います。まず、自分の街をもっと知る、文化歴史を知る、それだけの価値のある石川県であると思います。英語等の語学と併せて、これらをしっかり学んで欲しいと思います。

石野 晴紀 委員

目標3

教員の資質・能力や学校の経営力の向上

高等学校の質の確保・向上を図るためには、その基盤となる教職員の資質向上と学校の組織運営体制の改善・充実が欠かせません。このため、教職員の研修や多様な人材を活用するための取組、PDCAサイクルを確実に進めるためのマネジメント体制の確立や、学校評価の充実などをより一層進めることが必要です。

また、様々な取組を通じて、その促進を図るだけでなく、学校全体で一つの方向に向かって組織的に取り組むとともに、学校が産業界や地域・社会と連携を進め、次世代の地域・社会を支えていく人材を育てることも重要となっています。併せて、それぞれの学校や教職員等が個別に対応するだけでなく、優れた知見を学校間で幅広く共有していくことも重要です。

これらを踏まえ、生涯学び続ける姿勢をもった人材としての教員の意識改革や資質・能力の向上に向け教員研修を充実するとともに、様々な課題に対応するため、組織的な学校運営への転換を図ります。

1

教員の専門性を高める研修の推進

教員の急激な世代交代に備え、高校教育の質の確保・向上を進めるに当たっては、日々生徒に接する教員の指導力向上は欠かせません。このため、授業改善等の充実に取り組むための研修の充実を含め、高い専門性と実践的な指導力を身に付けられるよう、教育センターの研修や「いしかわ師範塾」等の充実を図るとともに、新たに構築するスマートスクールネットの活用を通じて、教員の「学びの力」を育む指導力の向上に取り組みます。

県教育センター研修事業の充実

経年研修については一部見直しを行い、初任段階での早期の人材育成を目指し悉皆研修の充実を図りました。また中堅層の学校運営参画意識を高めるため、中堅後期における悉皆研修の充実も図っています。

教科等指導に関する研修や今日的課題に関する研修では、個人のレベルに応じてより高い専門性を身に付けることができるよう、内容を「基礎」「応用」「発展」の3段階に区分して明示し、受講生を募ります。

スマートスクールネットの活用

研修講座や優秀教員による授業の動画のオンデマンド配信では、教員の必要に応じていつでも視聴ができます。また、遠隔地でも Skype と組み合わせれば講師に質問できるなど、双方向の研修が可能となります。

2

組織的学校の経営の推進

社会や学校を取り巻く環境が大きく変化し、学校現場が抱える課題も複雑・多様化していることから、その課題に対して学校全体で一つの方向に向かって組織的に取り組むとともに、学校が産業界や地域・社会と連携を進める必要があります。

このことに対応するため、専門家等の外部人材を積極的に活用するとともに、教員の評価システムの再構築などを行い、学校の組織的な対応を促進します。

いしかわ師範塾のプレミアム研修

学校における次代の中核的リーダーを養成するワンランク上の研修です。「若手教員を育てるOJTリーダー研修」や「学校研修リーダー研修」、「交渉力向上研修」など、組織運営、人材育成、外部との連携といった学校経営に必要なマネジメント能力を高める研修の充実を図ります。また、生徒指導、インクルーシブ教育、各教科指導など様々な分野に関して、より専門性の高い研修も実施します。



3

教員の視野を広げる取組の推進

近年の産業・就労構造の変化をはじめとした経済社会の変化や、高等学校を取り巻く現状を踏まえれば、多様化した生徒の様々な学習ニーズへの対応や学習機会に係る選択肢の充実は、今後も引き続き推進していくことが求められています。

これらを踏まえ、社会の変化を察知し日々の授業改善に生かせるよう、企業トップの講演会等を通じて教員の社会的視野を広げる取組を推進します。

企業トップに学ぶ研修（県教育センターの研修）

グローバルに活躍する企業トップの講演を企画し、企業を取り巻く環境が変化する中での経営の在り方や目標に向けた組織運営などの話を通して、企業や社会の実情や高校生に求める資質・能力を知り、進路指導・キャリア教育に役立てるとともに、学校運営の在り方についても見直す機会とします。

目標4

質の高い学びを実現する教育環境の整備

これからの激動の社会を生き抜くためには、自ら考え、また、学校内外の多様な人々と協働しながら主体的に課題を解決し、価値を創造する力が求められており、このような力を育むためには、ICTの活用なども図りつつ、協働型・双方向型の新たな学びの要素を取り入れていくことが求められています。

これらを踏まえ、学力向上に向けた評価システムや施設・設備など、質の高い学びを実現する教育環境を整備します。

1

新たな学びに対応した評価システムの構築

高等学校教育の多様化は、結果として、生徒が高等学校の学習で何をどの程度習得したのかを見えにくくしており、高校生としての基礎的・基本的な学力を身に付けさせるための仕組みを導入するなど、高等学校教育の質を確保すること等が課題となっています。

こうした課題に対応するため、校種や生徒の学力等を踏まえ、高等学校教育を通じて身に付けるべき資質・能力を多面的に評価する手法について、調査研究を実施します。

学力スタンダード策定・評価研究事業 ※再掲

2

新たな学びを実現する学習環境の整備

確かな学力をより効果的に育成することを目指し、言語活動の充実や、グループ学習、ICTの積極的な活用をはじめとする指導方法・指導体制の工夫改善を通じた協働型・双方向型授業を推進するため、ICT環境の整備など、教育の質の向上を目指す上で必要な学習環境の整備に努めます。

ICT環境の整備

書画カメラ、プロジェクター、タブレット端末、無線LANなどの整備を進め、ICTを効果的に活用した授業により、生徒の学力向上につなげます。

3

産業構造や技術革新に対応できる高校の環境整備

成長分野における産業振興や地域活性化の中核を担う専門人材等の養成に向けて、実践的な職業教育を充実し、生徒が学びやすい新しい学習システムを構築するため、地域の産業界、大学・研究機関等との連携により、専門性の向上に努めるとともに、必要な環境整備に努めます。

アクションプランに関するQ&A

Q1 目指すべき生徒像で、「心身ともにタフな生徒」となっているのはなぜですか？

A. 「タフ」という言葉には、「困難にぶち当たってもへこたれない、それに立ち向かい打ち克つ」という意味、いわゆる「怯まない」「不屈の」「しぶとい」という意味があります。学力向上を考えるにあたっては、一面的な学力ではなく、難しい課題にぶつかってもしっかりと立ち向かえるような力を、石川県として高校生に求めたい学力として考えているためです。

Q2 目標1と目標2で、生徒に身に付けさせたい力の違いは何ですか？

A. 目標1と目標2はいずれも、石川県の高校教育の質を確保するために設定したのですが、両者の違いについては、目標1の方は、生徒一人ひとりの普遍的な力の育成という視点で、目標2の方は、社会とのつながりの中で、未来に向けて立ち向かう力の育成という視点で設定しています。

Q3 指導計画書（学力スタンダード）をつくることで、指導の在り方にどのような変化がありますか？

A. これまで行ってきた学習指導と異なる指導を導入しなければならないということではありません。従来の、学力の3要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度）を育む指導について、さらに明確化させ、充実させるための指導計画書（学力スタンダード）を作成すると考えてください。

学力スタンダードを作成するプロセスで、教員同士が教科会等で協議を重ね、目指すべき指導を考えることにより、生徒の資質・能力に応じた統一の目標設定を行ったり、優れた指導法等を共有化するなど、各教員の授業改善に役立てることが出来ます。

また、個々の教員の裁量に大きく任せられていた教科指導法（暗黙知）から、当該高校で教科指導を行う全教員が協議し設定した教科指導法（形式知）に転換することになり、新しく赴任した教員が、本校で求めるべき学習の深度を把握してスムーズに授業に入っていけるようにするための指導資料としても役立ちます。

大切なポイントは、学力スタンダードで教員間の目線合わせを行った上で、一人ひとりの教員の持ち味や個性を一層伸ばすことです。

Q4**アクティブ・ラーニングとは何ですか？**

- A.** 教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な参加を取り入れた教授・学習法の総称です。学習者が能動的に学ぶことによって、論理的・批判的思考力や人間関係形成力など、汎用的能力の育成を図ることができます。
- 具体的な方法としては、ディスカッション、ディベート、グループワークなどがあります。

Q5**批判的思考力とはどのようなものですか？**

- A.** クリティカル・シンキングとも言われる批判的思考とは、自分の判断や行動の根拠となる証拠に基づく論理的で偏りのない思考のことです。決して、単に「相手を批判する」思考ということではありません。むしろ、自分の思考を意識的に吟味しようとする内省的な思考であり、答えが一つと限らない「探究」の分野においては、客観性・論理性・多面性・内省的態度・コミュニケーション力といった様々な力が求められる、この思考は極めて大切な考え方です。

Q6**キャリア教育は、大学進学指導を重視する本校においても必要ですか？**

- A.** キャリア教育は、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的な働きかけのことであり、卒業後の進路にかかわらず、すべての生徒にとって必要です。単に職業について考えるのではなく、生徒が自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じて行われることが求められています。
- 大学進学を目指す生徒に対しては、大学で何を学び、それを将来どう生かすのかを考えさせるなど、大学進学に対する目的意識を明確にするためのキャリア教育が不可欠です。職業人インタビューやインターンシップなど特定の活動に限定するのではなく、日々の授業など、教科指導を含め様々な教育活動の中で「大学の向こうにある社会」を意識させることは、学習意欲を高め、確かな学力を向上させることにつながります。

Q7**イノベーションを担う人材を育てるためには、どのようなことが必要ですか？**

- A.** イノベーションとは、新しいものを生産する、あるいは既存のものを新しい方法で生産することを意味しています。イノベーションの例としては、創造的活動による新製品開発、新生産方法の導入、新マーケットの開拓、新たな資源（の供給源）の獲得、組織の改革などがあり、決して科学技術分野だけを指すわけではありません。このような人材を育てるためには、外部人材を積極的に活用するとともに、教員自身が広く社会に目を向け、研鑽を重ね、生徒の指導に生かしていくことが大切です。

アクションプラン策定推進委員会名簿

■ 委員

(五十音順)

氏 名	所 属 ・ 職 名 等
あら せ かつ み 荒 瀬 克 己	大谷大学 教授
いし の はる き 石 野 晴 紀	株式会社石野製作所 代表取締役社長
い もり き み 藺 森 喜 美	県立野々市明倫高等学校長
かじ もと いつ こ 梶 本 逸 子	元 県立金沢二水高等学校長
くわ むら さ わ こ 桑 村 佐和子	金沢美術工芸大学 教授
さ とう ふみ お 佐 藤 文 夫	県立小松工業高等学校長
しん や ちょうじろう 新 屋 長二郎	石川県高等学校長協会 会長 (県立金沢泉丘高等学校長)
たか せ けいしろう 高 瀬 敬士郎	ライオンパワー株式会社 代表取締役社長
たち ぎよし 館 清	石川県高等学校PTA連合会 会長
ふじ た のり こ 藤 多 典 子	石川県婦人団体協議会 会長
ほん じよ めぐみ 本 所 恵	金沢大学 准教授
☆ まつ ざわ てる お ☆ 松 澤 照 男	北陸先端科学技術大学院大学 副学長
みず こし ひろ はる 水 越 裕 治	株式会社アクトリー 代表取締役社長
むら い よし お 村 井 吉 雄	元 県立小松商業高等学校長
やま もと と き お 山 本 登紀男	元 県立七尾高等学校長
よし とみ よし まさ 吉 富 芳 正	明星大学 教授

☆ 委員長

■ アドバイザー

氏 名	所 属 ・ 職 名 等
みや け 三 宅 なほみ	東京大学 教授



資料編

石川県高等学校「学びの力」向上 アクションプラン全体構想（概要版）

現状・背景

●少子化による多様な生徒の高校での受け入れ、グローバル社会の進展などによる高校卒業者の社会での役割の多様化 →高校卒業時における生徒・保護者等の多様なニーズへの取組が必要

- 進学校における旧帝大や難関大学への進学、海外有力大学への進学及び留学対策の実施
- 専門高校等における企業が求める学力と専門技術の習得促進
- 学力レベルに応じた普通高校や総合学科における目指すべき学力等の習得促進

- 各校で目指すべき学力の定義付けと個の進路に見合った学力向上支援策が必要
- 確かな基礎学力を身に付けさせるとともに、活用する力や深く思考する力の育成が必要
- 全国学力調査で全国上位を維持する本県中学生の能力や可能性を伸ばす取組が必要

先行的・戦略的な「学びの力」向上アクションプランの策定

参考

- 平成27年度に県の教育振興基本計画を改定。次期学習指導要領については28年度に答申、29年度に告示（予定）
 - 地域社会の即戦力となる人材を育成する高等学校教育においては国の動向に対応する施策を先行実施することが重要
- 中教審答申（H26年12月）「高大接続・大学入試改革」などの議論
 - 高校生の学力到達度をみる「高校基礎学力テスト」を平成31年度（2019年度）から導入
 - センター試験を廃止し、知識の活用力や思考力をみる「大学入学希望者学力評価テスト」を平成32年度（2020年度）から実施

高等学校「学びの力」向上アクションプラン

目指すべき生徒像

自ら学び、課題を見付け、解決できる力を身に付けた、心身ともにタフな生徒

目標 1

一人ひとりの資質・能力を高め、社会の変化に対応できる実践力を育む教育の推進

学力の三要素として捉えられている「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力等」及び「主体的に学習に取り組む態度」を基盤とし、自立した人間として、他者と協働しながら、新しい価値を創造する力の育成など、生徒一人ひとりの資質・能力を高め、21世紀の社会を生き抜く実践力を育みます。

① 社会活動を行う上で共通に身に付けるべき資質・能力の育成

ア 生徒の資質・能力と学習到達度に応じた学力の質を確保する取組

学力の三要素を基盤として、各校の特性や学習到達度を踏まえ、学力基準（スタンダード）を設定し、生徒一人ひとりの学力の質の確保に努めます。

- 学力スタンダード策定・評価研究事業（スクールポリシーの策定を含む）

イ 卒業後の社会で必要とされる資質・能力の育成

協働型・探究型授業を実践し、生徒一人ひとりに21世紀をより良く生き抜くために必要な資質・能力を育むとともに、生涯にわたって学び続ける態度を養います。

- いしかわ探究スキル育成プロジェクト

② 学校のタイプや多様な進路に応じたタフな学力を育む教育の推進

ア 学校の特性に応じて更なる高みを目指した取組の充実

学校の特性を踏まえた特色ある学習活動や学校間連携による生徒・教員の切磋琢磨する機会を設定し、生徒の学ぶ意欲の喚起や教員の指導力向上にむけて、学校をあげて推進します。

- いしかわニュースーパーハイスクール（NSH）
- 高等学校連携による教育力向上推進事業
- 地域交流による高等学校活性化事業

イ 時代のニーズに応じた実践的な産業教育の充実

資格・検定試験の積極的な取得・活用を図るとともに、専門高校等が地元企業などと連携して、石川の食、ものづくり、くらし・経済を支える将来の専門的職業人につながる力の育成に努めます。

- スーパープロフェッショナルハイスクール（SPH）
- グローバル観光人材育成事業
- 産業教育フェア

目標 2

未来への飛躍を実現する人材の育成

創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、コミュニケーション能力、英語運用能力などを培い、変化する社会の中で新たな価値を創出し、社会の各分野を牽引していく人材を育成します。

① 地域の活性化に貢献できる人材の育成

ア 地域社会の一員として主体的に参加する態度やふるさと愛の伸長
地域と連携し、社会の一員として主体的に参画し貢献する意識や態度とともに、ふるさとを愛する心を養い、地域を支える人材育成を図ります。

イ 地域に活力を与える企画力を備えた人材の育成

実践的な教育活動への支援を通じて、教育の質の向上を図り、企画力やチャレンジ精神を持ち、地域社会の活性化に主体的に寄与することのできる人材を育成します。

- [おもてなし] を学ぶ授業の推進
- 社会と関わる土曜学習事業
- 地域交流による高等学校活性化事業
- 石川ふるさと学（産業・文化・自然等）の推進
（石川版教科書「ふるさと石川」の活用）
- 未来の職業人育成プロジェクト

② イノベーションを担う人材の育成

ア 最先端の科学分野で活躍しようとする意欲や科学的スキルの獲得
大学や研究機関、企業等と連携し、最先端の科学技術や実験を行ったり、大学の研究者による講義を行うなど、科学技術系分野を牽引する人材を育成します。

イ 人文分野での活躍を志す人材の育成

今日的な課題に対する議論や新たな提案（里山里海、伝統工芸、食文化など）を自ら進んで行うクリエイティブな力を持った人材を育成します。

- スーパーサイエンスハイスクール（SSH）
- いしかわ高校科学グランプリ
- 発展的科学研究実践事業
- 京都大学連携事業
- ふるさとに学ぶクリエイティブ人材育成事業

③ 世界に羽ばたくグローバル人材の育成

ア 幅広い教養や国際的な視野の獲得

グローバルな社会課題、グローバルなビジネス課題の探究に向け、様々な外部連携・協力を行うことにより、従来の教育活動の枠組を拡げた取組を進めます。

イ 英語コミュニケーション能力の育成

グローバル社会において、文化的な背景や価値観の異なる人々と意見を交わし、協働するための英語によるコミュニケーションスキルを育成します。

- いしかわニュースーパーハイスクール（NSH）
- スーパーグローバルハイスクール（SGH）
- 職業英会話力育成研究事業
- 英語指導力向上モデル事業
- 留学促進助成事業

目標 3

教員の資質・能力や学校の経営力の向上

教員の意識改革や資質・能力の向上に向け教員研修を充実強化するとともに、様々な課題に対応するため、組織的な学校経営への転換を図ります。

① 教員の専門性を高める研修の推進

教員の急激な世代交代に備え、研修や新たに構築するスマートスクールネットの活用を通じて、教員の「学びの力」を育む指導力の向上に取り組みます。

② 組織的学校の経営の推進

社会や教育を取り巻く環境が大きく変化し、学校現場が抱える課題も複雑・多様化していることから、専門家等の外部人材を活用するとともに、教員の評価システムの再構築などを行い、学校の組織的な対応を促進します。

③ 教員の視野を拡げる取組の推進

社会の変化を察知し日々の授業改善に生かせるよう、企業トップの講演会等を通じて教員の社会的視野を拡げる取組を推進します。

- いしかわ師範塾（プレミアム研修等）
- 教育センター研修事業の充実
- 企業トップに学ぶ研修

目標 4

質の高い学びを実現する教育環境の整備

学力向上に向けた評価システムや施設・設備など、質の高い学びを実現する教育環境を整備します。

① 新たな学びに対応した評価システムの構築

校種や生徒の学力等を踏まえ、高校教育を通じて身に付けるべき資質・能力を多面的に評価する手法について調査研究を実施します。

② 新たな学びを実現する学習環境の整備

ICT環境の整備など、教育の質の向上を目指す上で必要な学習環境の整備に努めます。

③ 産業構造や技術革新に対応できる高校の環境整備

地元の産業界、大学・研究機関等との連携により専門性の向上に努めるとともに必要な環境整備に努めます。

- 学力スタンダード策定・評価研究事業
- ICT環境の整備

県立高校「学カスタンダード」

～「学びの力」の育成に向けて～

背景・課題

現行学習指導要領に基づく指導

学習内容の項目のみを提示

→どこまで（深さ）教えるのかが未提示
学力が異なる生徒に対しての深さの違いが課題

学力の定着に向けて必要な視点

学習内容の項目について
「何をどこまで教え育むのか」
具体的な到達目標を設定する

→生徒の学力に応じた到達点（深さ）を明確にした指導

**取り入れるべき「指導の手立て」を
明文化し共通理解を得る**

→アークティブラーニング※、等を導入し
学習に効果的な教材・教具
などを明確にして組織的に指導計画
加えて

→アクティブラーニング※、等を導入し
論理的・批判的思考力等を育成
・生徒の学び意欲を向上
・教員の指導法をスキルアップ

学カスタンダードの設定

- ・生徒の学力に応じた目標の設定による、学びの意欲の喚起
- ・教員（チーム学校）の共通理解による徹底した指導
- ・社会で必要な資質・能力の育成につながる学習活動を実施

本県の目指す「学カスタンダード」とは

【内容】 校種や学校の特性に応じ、各校が生徒の学力到達目標を設定（2～3段階）。到達に応じてステップアップ。
【ねらい】 バックボーンとなる基礎学力を確実に身に付ける。
しっかりと基礎学力で思考の深みを増し、論理的・批判的思考力など「タフな学力」を育む。

学カスタンダードの内容

商業高校のスクールポリシー例

ビジネスが必要となるコミュニケーション能力やマナーを育成するために、ビジネス業務を想定した発言、発表場面を積極的に導入する。また、新しいビジネスに積極的にチャレンジする起業家精神を育むためにアクティブラーニングを取り入れる。

県教育委員会

「学カスタンダード」ガイドライン

・学習指導要領の内容項目ごとの到達目標の例示
・教員間で共通理解すべき指導の手立ての例示
(科目ごとで作成)

提示

県立A高校

学習指導方針 (スクールポリシー)

・目指す生徒像の実現に向けた授業づくりの行動指針

組織的な授業の進行管理

指導計画書 (学カスタンダード)

・到達目標
・指導の手立て
・生徒の目標到達度

県教育委員会の「学カスタンダード」ガイドライン 教科：地理歴史 科目：世界史A

内容	基礎レベル	応用レベル	発展レベル	指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)
	学習指導要領の学習内容の項目を記載 (2)世界の一体化と日本 ウ ヨーロッパ、アメリカの工業化と国民形成 ・産業革命前後の人々の生活の変化を、資料から読み取ることができる。 ・産業革命前後の生産方式や労働の在り方、人々の生活の変化を資料から読み取り、社会主義思想の成立と関連づけて考察できる。	具体的な到達目標 「何をどこまで教え育むのか」を記載 ・イギリス産業革命における各発明が社会に与えた影響を理解する。 ・産業革命前後の生産方式や労働の在り方、人々の生活の変化を資料から読み取り、社会主義思想の成立と関連づけて考察できる。	・イギリス産業革命を可能にした歴史的背景を理解する。 ・イギリス産業革命における各発明が社会に与えた影響を説明できる。 ・産業革命前後の生産方式や労働の在り方、人々の生活の変化を資料から読み取り、社会主義思想の成立と関連づけて考察できる。 ・工業化によって、イギリスを中心とした世界の一体化がどのように進んだのかを説明できる。	取り入れるべき指導の手立てを記載 【学習活動】 ・4人グループになり、キーワード(産業革命後の社会変動について等)を記入したカードを年次順に並べ替える。 ・各グループごとに「世界はどのように変化したのか」についての説明を討議し、発表する。 (キーワードやその数、説明する項目等を生徒の状況に応じて変えることで学習レベルを調整する。)

※教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、生徒の能動的な授業への参加を取り入れた教授・学習法の総称。
例) グループワーク、ディスカッション、ディベート等

内 容	具体的な到達目標		指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)	予定	実施	授業で把握した 目標到達度
	<基礎>レベル	<応用>レベル				
<p>イ 二次関数の値の変化</p> <p>(ア) 二次関数の最大・最小</p> <p>二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察した最大値や最小値を求めたこと。</p>	<p><基礎>レベル</p> <p>与えられた定義域で、値域内の y の値から二次関数の最大値・最小値を求めることができる。</p> <p>(例) 次の二次関数の最大値、最小値があれば、その値を求めよ。 (1) $y = (x+1)^2 - 3$ (2) $y = x^2 - 4x + 2$ ($-3 \leq x \leq 1$) (3) $y = -2x^2 + 4x + 3$ ($-2 < x \leq 2$)</p>	<p><応用>レベル</p> <p>このサンプルでは<基礎><応用>の二つの学習集団に分けて授業を実施 各レベルの最低限の到達点を設けるもので到達の上層を示すものではない。</p> <p>各到達目標のつながりを整理し、学習活動を含めた指導計画を立てる</p> <p>・身近な事象から関数を使って課題を分析できる内容の問題として具体化し提案することができる。</p> <p>(例) 文化祭で模擬店を開設して商品を販売し、利益を蓄積するためにその利益を最大にすることを上げる。</p>	<p>指導の手立て</p> <p>【学習活動】身近な事象に係る最大・最小を、関数を活用して追究する。協働学習の技法の一つであるジグソー法に取り組み、グループワークで問題を解決することを体験する。(パフォーミング課題) <基・応></p> <p><育む資質・能力> 関数概念の理解を深め、関数の有用性を認識すること、関数を活用して身近な事象を追究するという学習活動を通して学び、自律的行動力、批判的思考力、課題発見力を身に付ける。 <基・応></p>	<p>5月 ↓ 6月</p>	<p>5月8日 5月11日 5月13日 5月15日 5月18日 5月22日</p>	<p>・二次関数の値の変化とグラフを関連付けて考察することは、ほぼ全員定着した。 <基・応></p> <p>・最大値や最小値を求める技能の定着は、約5割。この後予定している協働学習では、この技能の定着も含めた学習活動とすることがある。 <基></p> <p>・二次関数の有用性を認識することについては、ほぼ全員達成した。 <基・応></p> <p>・「教えてもらってできる」という状態を抜けだし「自分たちの力で解決する」という実感を持てた生徒が6割程度。次回の協働学習では生徒の自主的取組をより促進する技法を取り入れる。 <基></p>
<p>【学習指導要領の 内容項目を記載 する】</p> <p>・係数や定数項に文字を含む二次関数や定義域の両端に文字を含む二次関数について、適切な場合分けを行い、二次関数の最大値や最小値を求めることができる。</p> <p>(例) aは定数とする。次の関数の最大値、最小値を求めよ。 $y = x^2 - 2ax$ ($-1 \leq x \leq 1$)</p> <p>(例) aは定数とする。次の関数の最大値、最小値を求めよ。 $y = x^2 - 2x + 2$ ($a \leq x \leq a+2$)</p>	<p>・身近な事象から関数を使って課題を分析できる内容の問題として具体化し提案することができる。</p> <p>(例) 文化祭で模擬店を開設して商品を販売し、利益を蓄積するためにその利益を最大にすることを上げる。</p>	<p>生徒の資質・能力の育成を目指した学習活動では、「教科」と「資質・能力」の関係を明記</p> <p>【知識・技能】 【思考力・判断力・問題解決力】 【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>【生徒は、】 ・学習指導要領の「教科」と「資質・能力」の関係を明記 ・学習の到達点はルーブリック(評価基準表)等で表現 ・到達点だけでなく学習過程の評価を重視</p> <p>【学習活動】場合分けを考察する場面で、まず個人で考えた後、互いの考えをペアやグループ内で伝え合い、個や集団の考えを発展させる。 学習指導要領の複数の内容項目(教科の目標を漏れない範囲で他教科の内容を含めることも可)を活用する学習活動が望ましい。</p>	<p>【学習活動】身近な事象に係る最大・最小を、関数を活用して追究する。協働学習の技法の一つであるジグソー法に取り組み、グループワークで問題を解決することを体験する。(パフォーミング課題) <基・応></p> <p><育む資質・能力> 関数概念の理解を深め、関数の有用性を認識すること、関数を活用して身近な事象を追究するという学習活動を通して学び、自律的行動力、批判的思考力、課題発見力を身に付ける。 <基・応></p>	<p>5月 ↓ 6月</p>	<p>5月25日</p>	<p>・場合分けの必要の有無は判断できるが、適切に場合分けをするという点で課題のある生徒が少なくない。次時は、透明フィルムを活用し生徒自身で放物線や定義域をプリント上で移動させ視覚的に確認させる。 <応></p>

到達目標、指導の手立てを意識しながら授業の進行管理を実施

内 容		具体的な到達目標	
		<基礎>レベル	<応用>レベル
A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	<p>「話すこと・聞くこと」の指導</p> <p>「話すこと・聞くこと」の指導事項の、 ア、話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。</p>	<p>・学習したことを参考にして自分の考えをもち、根拠に基づいて説明することができる。</p>	<p>・学習したことを多角的に検討して自分の考えをもち、根拠に基づいて説明することができる。</p>
	<p>※上記の指導を通して、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項の、 ア、伝統的な言語文化に関する事項の、 (イ)文語のきまり、訓読のきまりなどを理解することを指導する。</p>	<p>・分析の結果を根拠に基づき説明する。</p> <p>・前の活動で聞き取り理解したことをもれなく説明し、自分の担当箇所と比較する。</p> <p>※歴史的仮名遣いや、基本的な古語の本文中での意味を理解し解釈に生かすことができる。 また、本文に登場した用言について、活用の種類やその活用形について理解する。</p>	<p>・分析の結果を、根拠に基づき、ポイントを絞る等、わかりやすく説明する。</p> <p>・<基>に加え、3日間の記述全体を基に、多角的な検討を加え、客観的に説明する。</p> <p>※歴史的仮名遣いについて十分理解し、本文中に登場した古語については、ここでの意味を全て理解し、解釈に生かすことができる。 用言については、本文中に登場したものについて、活用の種類や活用形などを識別し、解釈に生かすとともに、わかりやすく説明することができる。 また、助動詞や助詞についても、意味や用法を理解する。</p>

	指導の手立て
<発展>レベル	(学習活動・使用教材・教具等)
<p>・学習したことを多角的に検討して自分の考えをもち、根拠に基づき、論理の構成や展開を工夫して説明することができる。</p> <p>・<応>に加え、論理構成や展開の仕方にも配慮しながら、効果的に説明する。</p> <p>・<応>に加え、論理構成や展開の仕方にも配慮しながら、わかりやすく説明する。</p> <p>・「女性に仮託」「日記文学という新分野の開拓」「表現技巧」「批評意識」等の観点から、この作品の面白さを有機的に考察する。</p> <p>※用言や助動詞、助詞についての理解を深め、解釈に生かすとともに、その因果関係をわかりやすく説明することができる。</p>	<p>『土佐日記』「門出」を用いた学習活動例</p> <p>・冒頭～「ののしるうちに夜更けぬ」までの内容を全体で把握する。 (その際、文学史や月の異名といった古文知識も身に付ける。)</p> <p>↓</p> <p>(・「二十二日」・「二十三日」・「二十四日」の予習を各自行う。)</p> <p>↓</p> <p>《学習課題》</p> <p>「二十二日」「二十三日」「二十四日」のそれぞれの日の記述内容や表現の面白さを読み取り、話し合おう。</p> <p>【学習活動】</p> <p>[エキスパート活動] <基・応・発></p> <p>・A「二十二日」B「二十三日」C「二十四日」の三班に分かれ、解釈や表現の工夫を分析する。(生徒の力に応じた班分けを行ってもよい。また授業者は、発表等で各班の分析内容を確認する。)</p> <p>[ジグソー活動] <基・応・発></p> <p>・A・B・C各1名ずつの3人班となり、担当箇所を説明する。</p> <p>・班を替え、エキスパート活動で自分が担当しなかった箇所の説明を行う。(または全体会で発表する。)</p> <p>班員は、自分が学習した内容と照会しながら聞く。</p> <p>[グループ活動] <発></p> <p>・この作品の面白さを文章にまとめ、話し合う。</p> <p>＜育む資質・能力＞</p> <p>記述について様々な角度から検討して自分の考えをもち、協働学習をとおして根拠を明確にしながら論理の構成や展開を工夫して意見を述べる過程において、論理的・批判的思考力や想像力、豊かな心情を育む。</p>

内 容		具体的な到達目標	
		<基礎>レベル	<応用>レベル
C 読 む こ と	<p>「読むこと」の指導事項の、 エ、文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。</p>	<p>・文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の面白さを理解する。</p> <p>(グループ活動で次の点をおさえる。)</p>	<p>・文章の構成や展開を確かめ、記述されている内容や表現の面白さを理解するとともに、書き手の意図を捉えている。</p> <p>(グループ活動で次の点をおさえる。)</p>
	<p>※上記の指導を通して、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項の、 ア、伝統的な言語文化に関する事項の、 (イ)文語のきまり、訓読のきまりなどを理解することを指導する。</p>	<p>・表現の面白さを発見し、比較する。</p> <p>※歴史的仮名遣いや、基本的な古語の本文中での意味を理解し解釈に生かすことができる。 また、本文に登場した用言について、活用の種類やその活用形について理解する。</p>	<p>・「二十三日」の記述に見られる批評には、間接的に土佐守の人柄を称えたものであることを発見する。</p> <p>・表現の面白さを発見し、比較する。</p> <p>※歴史的仮名遣いについて十分理解し、本文中に登場した古語については、ここでの意味を全て理解し、解釈に生かすことができる。 用言については、本文中に登場したものについて、活用の種類や活用形などを識別し、解釈に生かすとともに、わかりやすく説明することができる。 また、助動詞や助詞についても、意味や用法を理解する。</p>

	指導の手立て
＜発展＞レベル	（学習活動・使用教材・教具等）
<p>・文章の構成や展開を確かめ、記述内容や表現の仕方に見られる作者の意図を理解するとともに、その効果について根拠を明確にして指摘し、評価することができる。</p> <p>（グループ活動で次の点をおさえる。）</p> <div data-bbox="199 1037 687 1160" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・「二十三日」の記述に見られる批評には、間接的に土佐守の人柄を称えたものであることを発見する。</p> </div> <div data-bbox="199 1211 687 1267" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・表現の面白さを発見し、比較する。</p> </div> <div data-bbox="199 1491 687 1608" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・前の「二十三日」の記述に見られた批評意識の読み取りを生かし、批評意識が表現にも反映されていることを類推する。</p> </div> <p>※1 用言や助動詞、助詞についての理解を深め、解釈に生かすとともに、その因果関係をわかりやすく説明することができる。</p> <p>※2 推量の助動詞「む」にも着目して、「二十三日」の記事には作者の考察が含まれると判断する。</p>	<p>『土佐日記』「門出」を用いた学習活動例</p> <p>・冒頭～「ののしるうちに夜更けぬ」までの内容を全体で把握する。 （その際、文学史や月の異名といった古文知識も身に付ける。）</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>（・「二十三日」・「二十三日」・「二十四日」の予習を各自行う。）</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>《学習課題》</p> <div data-bbox="735 633 1382 748" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「二十三日」の記事からうかがえる作者の批評意識を、「二十三日」、「二十四日」と比較して読み取ろう。</p> </div> <p>【学習活動】 〔グループ学習〕</p> <p>・班で、「二十三日」と他2日との、共通点と相違点を話し合い、比較する。 <基・応・発></p> <p>・「二十三日」に見られる批評の意図を読み取る。 <応・発></p> <p>・「二十三日」「二十三日」「二十四日」（①～④）の記述に見られる表現の面白さを発見し、比較する。 <基・応・発></p> <p>① 「船路なれどむまのはなむけす。」 ② 「潮海のほとりにてあざれあへり。」 ③ 「物によりてほむるにしもあらず。」 ④ 「一文字をだに知らぬ者、しが足は十文字に踏みてぞ遊ぶ。」</p> <p>・表現から読み取れる批評意識を考察する。 <発></p> <div data-bbox="756 1675 1374 1951" style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>＜育む資質・能力＞</p> <p>文章の構成や展開を確かめ、表現の仕方を評価したり、協働学習をとおして書き手の意図を探ったりする過程において、論理的・批判的思考力や想像力、豊かな心情を育む。</p> </div>

内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
(2) ウ 世界 の 一 体 化 と 日 本 ヨーロッパ・ア メ リ カ の 工 業 化 と 国 民 形 成 産業革命と資本主 義の確立、フラン ス革命とアメリカ 諸国の独立、自由 主義と国民主義の 進展を扱い、ヨー ロッパ・アメリカ における工業化と 国民形成を理解さ せる。	[経済や社会の動向] ・産業革命前後の生産方式や労働の在り方、 人々の生活の変化を、資料から適切に読み 取ることができる。 ・資料から読み取った産業革命前後の生産方 式や労働の在り方、人々の生活の変化を、 社会主義思想の成立と関連づけて考察でき る。 [政治の動向] ・18世紀半ば～19世紀の大西洋世界の諸 地域におけるナショナリズムの高揚と国民 国家形成の諸相を、資料から適切に読み取 ることができる。 ・資料から読み取った18世紀半ば～19世 紀の大西洋世界の諸地域におけるナショナ リズムの高揚と国民国家形成の諸相につい て考察し、説明できる。	[経済や社会の動向] ・イギリス産業革命の過程を理解する。 ・産業革命前後の生産方式や労働の在り方、 人々の生活の変化を、資料から適切に読み 取ることができる。 ・資料から読み取った産業革命前後の生産方 式や労働の在り方、人々の生活の変化を、 社会主義思想の成立と関連づけて考察でき る。 [政治の動向] ・大西洋世界の諸地域に展開した、一連の政 治的変動の過程を理解する。 ・18世紀半ば～19世紀の大西洋世界の諸 地域におけるナショナリズムの高揚と国民 国家形成の諸相を、資料から適切に読み取 ることができる。 ・資料から読み取った18世紀半ば～19世 紀の大西洋世界の諸地域におけるナショナ リズムの高揚と国民国家形成の諸相につい て考察し、説明できる。

<p style="text-align: center;">＜発展＞レベル</p>	<p style="text-align: center;">指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<p>[経済や社会の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリス産業革命の過程を理解する。 ・産業革命前後の生産方式や労働の在り方、人々の生活の変化を、資料から適切に読み取ることができる。 ・資料から読み取った産業革命前後の生産方式や労働の在り方、人々の生活の変化を、社会主義思想の成立と関連づけて考察できる。 ・工業化によって、イギリスを中心とした世界の一体化がどのように進展したのかを説明できる。 <p>[政治の動向]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大西洋世界の諸地域に展開した、一連の政治的変動の過程を理解する。 ・大西洋世界の諸地域に展開した一連の政治的変動が、その後の世界にどのような影響を与えたかを説明できる。 ・18世紀半ば～19世紀の大西洋世界の諸地域におけるナショナリズムの高揚と国民国家形成の諸相を、資料から適切に読み取ることができる。 ・資料から読み取った18世紀半ば～19世紀の大西洋世界の諸地域におけるナショナリズムの高揚と国民国家形成の諸相について考察し、説明できる。 	<p>【本質的な問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命は、なぜ「革命」なのか。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでキーワード（産業革命後の社会変動について等）を記入したカードを年代順に並べ替えながら、世界がどのように変化したのかを説明する。キーワードやその数、説明する項目、学習形態（グループかペアか）を生徒の状況に応じて変えることで、基礎から発展レベルまで汎用可能。 <基・応・発> <p>【本質的な問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や政治の変革に際し、当時の人々はどのように思い行動したのか。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ独立革命、フランス革命、ナポレオン戦争、ウィーン体制、南北戦争前後等の時代に関する文献資料から、当時の人々の意識や各国の思惑等を適切に読み取り、互いに発表し合う。（ペアまたはグループ。資料の数によってはジグソーを行う。） <基・応・発> ・大西洋世界の一連の政治的変動を年表にまとめる。 <応・発> ・大西洋世界の一連の政治的変動を地図上にまとめる。 <発> ・19世紀のアメリカ合衆国の工業化についてはここで扱う。 ・ラテンアメリカ諸国独立後の政治・社会の特色と欧米諸国への経済的従属や独自の文化についても触れる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>＜育む資質・能力＞</p> <p>生徒は、主に18世紀半ばから19世紀の大西洋世界の経済的・社会的・政治的変動について、その特色や経過や意義、影響をまとめ説明したり、資料を整理・解釈する活動を通して、論理的思考力、問題解決力・発見力、社会参画力を身につける。</p> </div>

内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
<p>エ</p> <p>アジア諸国の変貌と近代の日本</p> <p>ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況，植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折，伝統文化の変容，その中での日本の動向を扱い，19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p>	<p>[アジア諸帝国の状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18世紀後半～19世紀に，アジアの諸帝国において，国内支配体制の動揺が見られたり，伝統的な国家体制や貿易の仕組みが変化を余儀なくされたりした理由について，史料から考察し簡潔にまとめることができる。 <p>[アジア諸国の植民地化・従属化の過程]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18世紀後半～19世紀のアジア（主にトルコ，インド，中国）における，ヨーロッパ諸国の進出に伴って生じた社会や経済の変動，伝統文化の変容に対して，アジア諸国の人々がどのように抵抗し，またどのように民族意識や社会変革への動きが高まったのか，史料から適切に読み取ることができる。 <p>[日本の開国と近代化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の開国，明治維新，その後の近代化について，他のアジア諸国の歴史と相互に比較しながら説明できる。 	<p>[アジア諸帝国の状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18世紀後半～19世紀に，アジアの諸帝国において，国内支配体制の動揺が見られたり，伝統的な国家体制や貿易の仕組みが変化を余儀なくされたりした理由について，史料から考察し簡潔にまとめることができる。 <p>[アジア諸国の植民地化・従属化の過程]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18世紀後半～19世紀のアジアにおける，ヨーロッパ諸国の進出に伴って生じた社会や経済の変動，伝統文化の変容に対して，アジア諸国の人々がどのように抵抗し，またどのように民族意識や社会変革への動きが高まったのか，史料から適切に読み取ることができる。 ・史料から読み取ったことをもとに，この時期のアジア諸国の状況について，その特色を簡潔にまとめ，文章化できる。 <p>[日本の開国と近代化]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の開国，明治維新，その後の近代化について，他のアジア諸国の歴史と相互に比較しながら説明できる。

<p style="text-align: center;">＜発展＞レベル</p>	<p style="text-align: center;">指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<p>[アジア諸帝国の状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 18世紀後半～19世紀に、アジアの諸帝国において、国内支配体制の動揺が見られたり、伝統的な国家体制や貿易の仕組みが変化を余儀なくされたりした理由について、史料から考察し簡潔にまとめることができる。 <p>[アジア諸国の植民地化・従属化の過程]</p> <ul style="list-style-type: none"> 18世紀後半～19世紀のアジアにおける、ヨーロッパ諸国の進出に伴って生じた社会や経済の変動、伝統文化の変容に対して、アジア諸国の人々がどのように抵抗し、またどのように民族意識や社会変革への動きが高まったのか、史料から適切に読み取ることができる。 史料から読み取ったことをもとに、この時期のアジア諸国の状況について、その特色を簡潔にまとめ、文章化できる。 アジア諸国の植民地化・従属化の過程を説明できる。 <p>[日本の開国と近代化]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の開国、明治維新、その後の近代化について、他のアジア諸国の歴史と相互に比較しながら説明できる。 18世紀後半～19世紀に進展した世界の一体化の流れのなかで、日本の開国と近代化がどのような意味を持つのか、近隣諸国との関係も含めて説明できる。 	<p>【本質的な問い】</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜアジア諸国は、西欧に従属することとなったのか。 なぜ日本は、植民地化を免れたのか。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで史料を読み、読み取ったことを発表し合う。史料の種類が多い場合は、ジグソー法を活用する。 <基・応・発> アジア諸国の抵抗、近代化の動き、民族意識の形成については、ヨーロッパの進出に対する受動的な対応だけでなく、社会変革へのアジアの主体的な動きにも着目させること。 <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでキーワードカードをもとに、植民地化を免れた日本と、西欧に従属することとなった他のアジア諸国の歴史を比較し、いつ、どのようなできごとが転換点となったと考えるか、説明し合う。 <基・応・発> 18世紀後半～19世紀のアジア諸国の変動について、地図上にまとめる。 <発>

内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
(2) オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割 グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。	[グローバル化の進展] ・人、商品、資本、情報などが国境を越えて自由に移動するグローバル社会の到来により、国際的な相互依存関係が深まってきていることを理解できる。 [人権、国家主権、領土に関する国際法の意義] ・国家主権の尊重、人権や領土に関する国際的な取り決めの遵守の必要性が増大していることを理解できる。 [人種・民族問題] ・人種や民族の違いが、宗教や言語などの問題と結び付いて地域紛争を引き起こすことがあることを説明できる。 [核兵器と軍縮問題] ・核兵器をめぐる現状と世界の軍縮への取組について理解できる。 [我が国の安全保障と防衛及び国際貢献] ・国際社会の平和と安全の維持において自衛隊が果たしている役割について理解できる。 [経済における相互依存関係の深まり] ・世界的な規模で自由な経済活動が拡大していることや、国際経済問題の解決には地球規模での連携が必要であることを理解できる。	[グローバル化の進展] ・グローバル化の進展が、人々の生活の利便性を向上させただけでなく、経済格差の広がりなど、負の側面をもつことについて説明できる。 [人権、国家主権、領土に関する国際法の意義] ・国際問題の解決に向けて、国際連合などの国際的な組織の果たす役割が増大していることを、具体的な事例を挙げて説明できる。 [人種・民族問題] ・近年の国際的な民族紛争の背景となる人種・民族対立について理解できる。 ・互いの文化や宗教を尊重することが重要であることを根拠に基づき説明できる。 [核兵器と軍縮問題] ・核兵器の開発・配備が国際社会に及ぼす影響や国連を中心とした軍縮への取組について理解できる。 ・核拡散防止条約、部分的核実験停止条約や包括的核実験禁止条約などが締結された意義やその背景について説明できる。 [我が国の安全保障と防衛及び国際貢献] ・我が国の安全保障に向けた多角的な努力や、自衛隊による国連の平和維持活動への参加など、国際貢献に向けた現実の取組について、事例を挙げて説明できる。 [経済における相互依存関係の深まり] ・情報通信技術の発達や世界的な規制緩和の動きを理解できる。 ・経済の国際化について、身近な商品の流通などの事例を踏まえて説明できる。

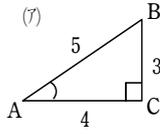
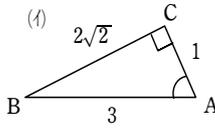
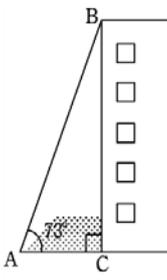
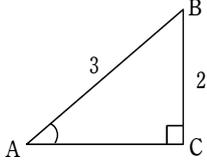
<p>＜発展＞レベル</p>	<p>指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<p>[グローバル化の進展]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦終結後のグローバル化の進展について歴史的背景を踏まえて説明できる。 ・グローバル化のもたらす諸課題について具体的な事例を踏まえて説明できる。 <p>[人権、国家主権、領土に関する国際法の意義]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権、国家主権、領土について現在の課題と背景について理解できる。 ・課題の解決に向けた国際的な取組について説明できる。 <p>[人種・民族問題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パレスチナやチェチェンなどの事例を基に、人種・民族問題や難民問題の背景や原因について理解できる。 ・紛争を回避するために必要な考え方や国際機関の果たすべき役割について説明できる。 <p>[核兵器と軍縮問題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦末期に戦略兵器削減条約や中距離核戦略全廃条約が締結されたことについて、その背景を理解できる。 ・化学兵器禁止条約やクラスター爆弾禁止条約の締結など、核兵器以外の分野における国際的な軍縮問題について説明できる。 <p>[我が国の安全保障と防衛及び国際貢献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在に至るまでの国際社会の動向を踏まえて、地球規模の問題解決のためには様々なレベルでの国際協力が求められていることを理解できる。 ・食料の安定供給なども含む、我が国の総合的な安全保障の重要性について、国際協調の立場から説明できる。 <p>[経済における相互依存関係の深まり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済の国際化が急速に進展している背景について理解できる。 ・国際経済問題の解決には地球規模での連携が必要であることについて、具体例を挙げて説明できる。 	<p>【本質的な問い】国際社会における日本及び日本人の役割とは？</p> <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品の製造国や企業の活動状況など身近な事例を通して、グローバル化の現状を把握し、思考ツール（Tの字分析）を使いペア・グループで正負の両面から分析し、課題解決方法を提案する。 ＜基・応・発＞ ・ICT機器を活用し、地図や写真、新聞記事などから我が国の人権、国家主権、領土に関する複数の資料から現状を分析させ、課題を見出し考察させる。 ＜基・応・発＞ <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、世界や日本で発生している人種・民族問題を原因とする時事的な問題に焦点をあて、映像・写真・新聞記事・地図など複数の資料から背景、現状、課題を捉え、思考ツール（KJ法＋Xチャート）を使い、ペアやグループで解決に向けた取組について、幸福・正義・公正の観点から提案する。 ＜基・応・発＞ ・ICT機器を活用し、世界の紛争を報じた新聞記事や各国の防衛予算など複数の資料から、国際的な軍縮問題の課題を発見し、原因を追及させる。 ＜基・応・発＞

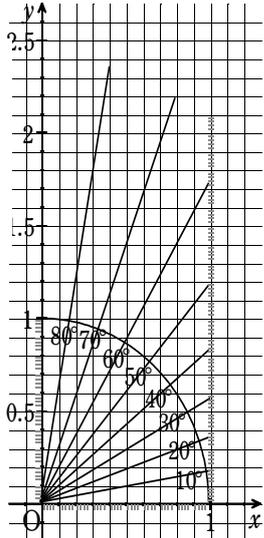
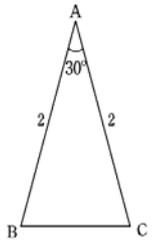
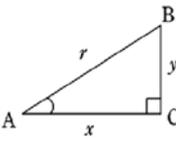
内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
<p>(2) オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割</p> <p>グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。</p>	<p>[地域的経済統合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の進展とともに、国際的な経済の相互依存関係が深まっていることを理解できる。 ・EUなどの事例を踏まえて地域的経済統合の動きについて説明できる。 <p>[国際社会における貧困や格差]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南北問題や南南問題などの国際的な経済問題の解決のためには、国際協調が必要であることを認識し、我が国をはじめとする国際社会などの果たす役割の重要性について理解できる。 	<p>[地域的経済統合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な経済の相互依存関係の深まりについて理解し、世界各地に広がる地域的な経済統合の動きについて、具体的事例を踏まえて説明できる。 <p>[国際社会における貧困や格差]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済のグローバル化がもたらす地域間・国家間の経済格差の問題や、南北問題などの諸課題の解決に向けて、我が国をはじめとする国際社会などに求められる役割について説明できる。

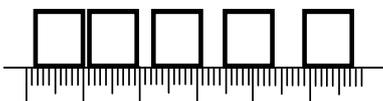
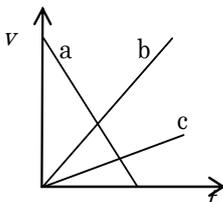
	指導の手立て
<発展>レベル	(学習活動・使用教材・教具等)
<p>[地域的経済統合]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際的な自由貿易体制を維持・発展させることが世界経済の重要課題であることについて、その背景や影響とともに、地域経済統合や自由貿易協定などの用語を使用して説明できる。 <p>[国際社会における貧困や格差]</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際経済の諸課題について、歴史的経緯を踏まえて理解できる。 南北問題などを解決するために、我が国や国際社会などが果たしてきた役割を整理した上で、今後のわが国に求められる経済協力の在り方について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> I C T機器を活用し新聞記事や統計資料、地図など複数の資料から、地域的経済統合について現状と課題を分析させる。 <基・応・発> <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の国の統計資料や写真・地図などの資料を提示し、南北問題についてペア・グループで、現状を分析し、問題発生の原因と解決のための方策についてそれぞれ優先順位をつけて提案する。 <基・応> <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 南北問題の解決のための国際機関やNGO、J I C Aなどの活動事例を調べ日本が果たすべき国際協力の在り方について、思考ツール（マトリクス表等）を用いて整理・分析し優先順位をつけて提案する。（パフォーマンス課題） <応・発> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><育む資質・能力></p> <p>国際社会の現状と諸課題を追究する学習活動を通して、国際的な相互依存関係を認識し、国際社会の一員として社会参画力・持続可能な未来づくりへの責任感を育む。</p> </div>

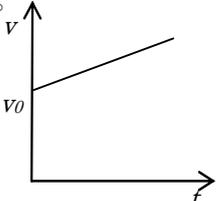
内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
<p>(3) 二次関数</p> <p>イ 二次関数の値の変化</p> <p>(イ) 二次方程式・二次不等式</p> <p>二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。</p>	<p>・二次関数のグラフとx軸との共有点のx座標は二次方程式の解であることを関係づけることができ、x軸との共有点のx座標を求めることができる。</p> <p>(例) 次の二次関数のグラフとx軸との共有点の座標を求めよ。</p> <p>1) $y=x^2-1$ 2) $y=(x+2)(x-3)$ 3) $y=x^2-5x+6$</p> <p>・二次関数のグラフとx軸との位置関係により、二次不等式の解の意味を解釈する。</p> <p>・二次関数のグラフを活用して、二次不等式を解くことができる。</p> <p>(例) 次の二次不等式を解け。</p> <p>1) $(x+1)(x-2)<0$ 2) $x^2-2x-3\geq 0$</p>	<p>・二次関数のグラフとx軸との位置関係を二次方程式の判別式Dを活用し、共有点の個数を求めることができる。</p> <p>(例) 次の二次関数のグラフとx軸との共有点の個数を求めよ。</p> <p>1) $y=x^2+x-6$ 2) $y=2x^2-3x+4$ 3) $y=-x^2+6x-9$</p> <p>(例) 次の二次不等式を解け。</p> <p>1) $x^2-4x+4<0$ 2) $-x^2+4x-4\geq 0$ 3) $x^2-4x+6>0$</p> <p>(例) すべてのxに対し、不等式$x^2+x+1>0$が成り立つことを示せ。</p>

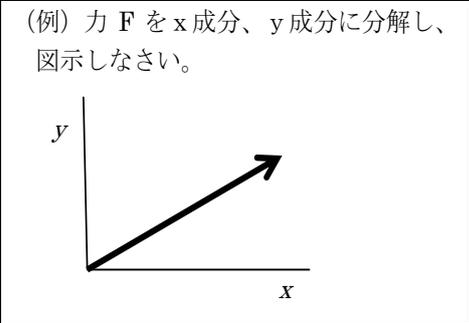
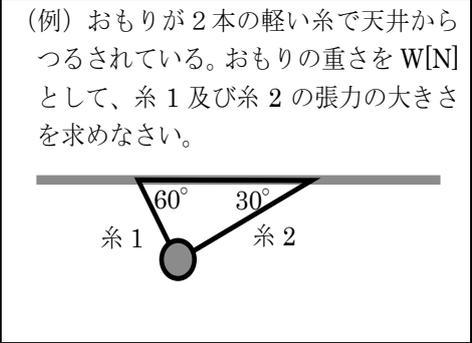
	指導の手立て
<発展>レベル	(学習活動・使用教材・教具等)
<p>・係数や定数項に文字が含まれる二次関数について、そのグラフとx軸との位置関係を適切に分類し(場合に分け)、考察することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例) 二次関数$y=x^2+2x+k$の グラフとx軸との共有点の個数を求めよ。</p> </div> <p>・係数に文字が含まれる二次不等式について、二次関数のグラフなどを活用して考察することができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例) 二次関数$y=x^2-2mx-m+6$のグラフが x軸の正の部分と、異なる2点で交わる時、 定数mの値の範囲を求めよ。</p> </div>	<p>・判別式Dの値と二次方程式の解の個数を関係づけて理解を深める。 <応・発></p> <p>・ICT機器を活用して、係数や定数項に含まれる文字に代入する値によって、グラフが変化の様子を視覚的にとらえさせる。 <発></p> <p>・【学習活動】場合分けを考察する場面は、まず個人で考えさせた後、互いの考えをペアやグループ内で伝え合い、個や集団の考えを発展させる。 <発></p> <p>・二次関数のグラフを用いて考察することの良さを認識させ、グラフの有用性を感じさせる。二次関数の問題を解くときには必ずグラフをかいて考察することを習慣づける。 <基・応・発></p> <p>・【学習活動】各エキスパート課題として、A. 二次方程式の解法、B. 二次関数を平方完成してグラフをかく、C. グラフにおいて$f(x)>0$あるいは$f(x)<0$の表す部分の考察、に取り組んだ後、協働学習の活動として、二次不等式の解法の課題にグループで取り組む。 <基・応></p> <p>・小テストを実施し、達成度や課題を把握する。 <基・応・発></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><育む資質・能力></p> <p>関数概念の理解を深め、関数の有用性を認識することを、二次関数を活用して身近な事象を追求するという学習活動などを通して学ぶことで、課題発見力、批判的思考力、自律的活動力を身に付ける。</p> <p style="text-align: right;"><基・応・発></p> </div>

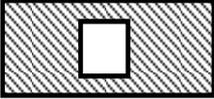
内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
<p>(2) 図形と計量</p> <p>ア 三角比</p> <p>(ア) 鋭角の三角比</p> <p>鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の定義を、直角三角形の辺の比と角の大きさとの関係として理解することができる。また、正弦、余弦、正接、\sin、\cos、\tan などの用語や記号の意味を正しく理解することができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例)</p> <p>下の(ア)(イ)の直角三角形ABCにおいて $\sin A$、$\cos A$、$\tan A$ の値を求めよ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(ア)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(イ)</p>  </div> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 三角比の有用性を認識し、三角比を利用して、直角三角形の辺の長さを求めることができるとともに、身近な事象に活用することができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 右の図のような校舎とその影でできる直角三角形ABCにおいて $AC=8\text{m}$、$\angle BAC=73^\circ$ であった。校舎の高さBCは何mか。四捨五入して小数第1位まで求めよ。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> 三角比の相互関係を理解し、一つの三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) $C=90^\circ$ である直角三角形ABCにおいて $\cos A = \frac{2}{5}$ のとき、$\sin A$、$\tan A$ の値を求めよ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の定義を理解し、直角三角形から三角比の値を求めることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 次の図で、$\sin A$、$\cos A$、$\tan A$ の値を求めよ。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> 三角比を活用して、身近なものの長さ（高さ、距離等）や角度を求めることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 地点Aから塔の先端Pを見上げた角は 45° であった。次に、塔に向かって水平に10m進んだ地点BからPを見上げた角は 60° であった。先端Pの真下の地点をHとすると、塔の高さPHを求めよ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 三角比の相互関係や $90^\circ - \theta$ の三角比について理解し、適切に活用することができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) θ は鋭角とする。</p> <p>(1) $\cos \theta = \frac{2}{5}$ のとき、$\sin \theta$、$\tan \theta$ の値を求めよ。</p> <p>(2) $\cos(90^\circ - \theta)$、$\tan(90^\circ - \theta)$ の値を求めよ。</p> </div>

<p style="text-align: center;">＜発展＞レベル</p>	<p style="text-align: center;">指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<p>・鋭角の三角比の定義を理解し、三角比を角の大きさと辺の長さの関係と捉えることができる。</p> <div data-bbox="226 517 700 1081" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 右の図を利用して、$10^\circ, 20^\circ, 40^\circ, 50^\circ$の三角比の値を小数第2位まで読み取りなさい。</p>  </div> <p>・鋭角の三角比の定義を理解し、身近なものの長さなどを求めることができるとともに、いろいろな図形に活用し、特別な角度に対する三角比の値を求めることができる。</p> <div data-bbox="213 1375 702 1644" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 右の図のように、$AB=AC=2$、$\angle A=30^\circ$の二等辺三角形がある。これを利用して$\sin 75^\circ$、$\cos 75^\circ$の値を求めなさい。</p>  </div> <p>・三角比の相互関係を鋭角の三角比の定義に基づいて説明することができ、三角比やその相互関係を適切に活用することができる。</p> <div data-bbox="217 1877 692 2069" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 右の図を利用して</p> $1 + \tan^2 A = \frac{1}{\cos^2 A}$ <p>が成り立つことを説明せよ。</p>  </div>	<p>・ICT機器を活用して図を提示し、着目すべき図形を考察させ、三角比の計算に必要な辺の長さなどを視覚的に捉えさせる。 ＜基・応・発＞</p> <p>・小テストを実施し、達成度や課題を把握する。また、ペアワークで三角比の値を確認する。 ＜基・応＞</p> <p>・直角三角形の斜辺や底辺の長さを1に固定して、角度を変化させることにより、三角比の値が角の大きさと共に連続的に変化する値（関数的変化）と捉えさせる。 ＜発＞</p> <p>・【学習活動】実際に塔や建物の高さを、グループごとに必要な値を実測し、三角比を用いて計算し、個や集団の考え方を発表する。 ＜基・応・発＞</p> <p>・【学習活動】グループごとにいろいろな図形を組み合わせることにより15°や75°、22.5°、36°などの三角比の値を考察し、個や集団の考えを発展させる。 ＜応・発＞</p> <p>課題学習</p> <p>・正五角形を取りあげ、その図形の中に潜む黄金比を見つけ出したり、それに関連して18°や72°の三角比の値を求める活動を行う。 ＜基・応・発＞</p> <p>・教具などを用いて相互関係の式を視覚的に考察させ、単に公式として覚えるのではなく、三角比の定義を基に図を用いて説明できるようにする。 ＜基・応・発＞</p>

内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
<p>(1) 物体の運動とエネルギー</p> <p>ア 運動の表し方 (ア) 物理量の測定と扱い方 身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を理解すること。</p> <p>(イ) 運動の表し方 物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解すること。</p> <p>(ウ) 直線運動の加速度 物体が直線上を運動する場合の加速度を理解すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 10^nを表すk(キロ)やm(ミリ)などの代表的なSI接頭語を使用できる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の空欄を埋めなさい。 (1) $10000\text{m} = (\quad) \text{km}$ (2) $0.01\text{m} = (\quad) \text{mm}$</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 物理量の単位は、基本単位を組み合わせることができる組立単位であることを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> • 定義に基づき速度を理解し、$x-t$グラフから、速度の大小及び正負を判断できる。 • 日常の事象を基に、直線上の合成速度、相対速度について理解する。 <ul style="list-style-type: none"> • $v-t$グラフから速度の増減を認識し、加速度の大小及び正負を判断できる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の運動の $x-t$ グラフ、$v-t$ グラフを書きなさい。</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 次の(1)~(3)に当てはまる $v-t$ グラフをそれぞれ選びなさい。</p> <p>(1) 加速度が正 (2) 加速度が負 (3) 加速度の大きさが最大</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 測定誤差を基に「12.3cm」と「12.30cm」の違いを理解し、科学表記 ($A \times 10^n$) を用いて表現できる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 12.3cm は $12.3 \pm 0.1\text{cm}$ と表現することもできる。 (1) 12.30cm を同様に表現しなさい。 (2) 12.3cm、12.30cm を $A \times 10^n$ の表記で表現し、両者の違いを説明しなさい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 公式から基本単位を組み合わせる組立単位で表現できる。 <ul style="list-style-type: none"> • グラフを用いて平均の速度と瞬間の速度の違いについて理解する。 • 直線上の合成速度や相対速度について、作図から求めることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 2m/s で動く船がある。次の(1)(2)を作図により求めなさい。 (1) 岸に静止している人から見た船上を進行方向に沿って 1m/s で進む人の運動 (2) 船の進行方向に沿って 3m/s で進む岸にいる人から見た船の運動</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 等加速度直線運動の式を理解し、活用できる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>(例) 初速 4m/s で動きだし、2m/s^2 の加速度で運動する物体がある。5秒後の速さとその間の移動距離を求めなさい。また、60m移動したときの速さを求めなさい。</p> </div>

<p style="text-align: center;">＜発展＞レベル</p>	<p style="text-align: center;">指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<p>・測定値の「加法・減法」と「乗法・除法」の有効数字の処理の違いについて理解し、計算できる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 有効数字を考慮に入れて次の計算をなさい。 (1) $12.3 + 2.45$ (2) 1.25×5.3</p> </div> <p>・物理量の定義を理解し、定義に基づいて基本単位を組み合わせて組立単位で表現できる。</p> <p>・物体の速度について、ベクトル量として取り扱うことができる。</p> <p>・平面上の合成速度や相対速度について、作図から求めることができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 東向きに 9m/s で走る自転車から見た、北向きに 12m/s で走る自動車の速さはいくらか答えなさい。</p> </div> <p>・等加速度直線運動の $v-t$ グラフから公式を導き出すことができる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) ある物体の速度が次のグラフで表されることを元に、t 秒後の変位を求める式を導きなさい。ただし、傾きを a とする。</p>  </div>	<p>・身近な例をとおして SI 接頭語の理解の定着を図る。 <基></p> <p>・単位・誤差・有効数字に関する演習をとおして理解を図る。 <応・発></p> <p>【本質的な問い】物体の運動を表すにはどのようにしたらよいだろうか。</p> <p>・ICT機器を用いて身近な例(自動車からみた電車の見え方等)を挙げて、視覚的に理解させる。</p> <p>・物体の運動を撮影したストロボ写真の解析をとおして等加速度直線運動の理解の定着を図る。</p> <p>・【学習活動】実験の考察・報告書の作成により $v-t$ グラフと運動の式の関係を考察させ、お互いの考えをペアやグループ内で伝えあう。(パフォーマンス課題)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><育む資質・能力></p> <p>・グラフと式を関係付けて思考することを、上記の【学習活動】をとおして学び、論理的思考力・自律的活動力を身に付ける。</p> </div>

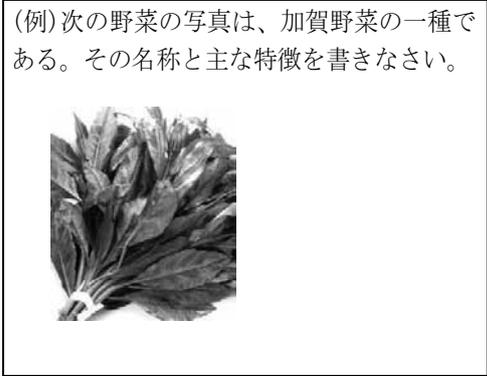
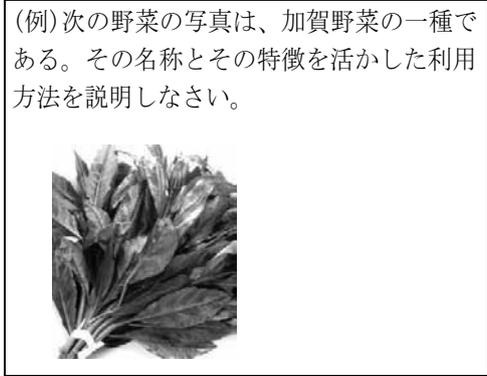
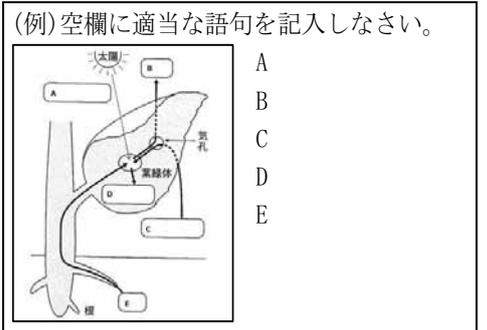
内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
<p>イ 様々な力とその働き (ア) 様々な力 物体に様々な力が働くことを理解すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 重力、垂直抗力、張力、摩擦力（静止摩擦力・動摩擦力）、弾性力、浮力がどのような力であるかを知り、それぞれを図を用いて表現できる。また、重力や弾性力については、それぞれの大きさが計算できる。 <p>(例)ばね定数 k のばねに質量 m の物体をつるしたときのばねの伸びはいくらか求めなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 接触力と遠隔力を区別でき、最大摩擦力・動摩擦力、圧力、浮力の大きさを求めることができる。 <p>(例) 一辺の長さが L の立方体が密度 ρ の液体中にあるときの浮力の大きさを求めなさい。</p>
<p>(イ) 力のつり合い 物体に働く力のつり合いを理解すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 力の合成、分解の作図ができる。また、力がつり合っている場合、力のベクトル和が 0 になることを理解する。 <p>(例) 力 F を x 成分、y 成分に分解し、図示しなさい。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 力のつり合いを利用して、様々な力の大きさを求めることができる。 <p>(例) おもりが 2 本の軽い糸で天井からつるされている。おもりの重さを $W[N]$ として、糸 1 及び糸 2 の張力の大きさを求めなさい。</p> 
<p>(ウ) 運動の法則 運動の三法則を理解すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 二つの力学台車による衝突実験などから、力が働くときには二つの物体が互いに力を及ぼし合っていることを理解する。 慣性の法則に関連した現象を、日常生活から挙げるができる。 加速度の大きさは加えた力の大きさに比例し、物体の質量に反比例することを理解する。 <p>(例) 質量 m の物体に F の力を加えたところ、a の加速度の大きさの加速度が生じた。 質量 $3m$ の物体に $2F$ の力を加えた時の加速度の大きさはいくらか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作用と反作用は、同一作用線上にあり、大きさは等しく、互いに逆向きであることを理解する。 静止している物体や、等速直線運動している物体に働いている力を理解する。 摩擦力が加わる物体、斜面上を滑り落ちる物体、複数の物体、定滑車を含む物体などの運動方程式を立て、加速度や力を求めることができる。 <p>(例) なめらかな平面上に糸でつながれた質量 M の物体 A と質量 m の物体 B がある。物体 B を物体 A と反対方向に力 F で水平方向に引っ張った場合の物体の加速度と糸の張力を求めなさい。</p>

<p>＜発展＞レベル</p>	<p>指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<p>・浮力がはたらく仕組みを考察し、浮力の式を導くことができる。</p> <div data-bbox="220 792 689 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 水中の物体にはたらく圧力を図示し、式を導きなさい。</p>  </div> <p>・物体に働く力について、つり合いの関係と、作用反作用の関係にある力を区別することができる。</p> <p>・慣性の法則を理解し、慣性と質量との関係について説明できる。</p> <p>・動滑車を含む物体、空気抵抗の加わる物体、2段重ねで摩擦が働く物体などの運動方程式を立て、計算できる。加速度や力を求めることができる。</p> <div data-bbox="220 1854 689 2078" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) なめらかなで水平な床に質量 M の板を静止させて置き、板上の質量 m の物体だけに右向きに初速 V_0 を与えた。物体と板との間の動摩擦係数を μ' としてその後の物体及び板の加速度を求めなさい。</p> </div>	<p>【本質的な問い】力とはどのような性質をもっているのだろうか。</p> <p>・はかり等を使用して力の大きさを実感させ知識の定着を図る。 ＜基＞</p> <p>・物体を引く力と物体にかかる摩擦力の関係を考察し、グラフに表現させる。 ＜応＞</p> <p>・水圧をもとに浮力がはたらく仕組みを考察させ、浮力の式を導きグループ内で発表させる。 ＜発＞</p> <p>・3力のつりあいの実験をとおして、つりあっているときの力の大きさを実感させる。</p> <p>・ICT機器を用いて身近な例（スケートやエアホッケー等）を挙げて、知識の定着を図る。 ＜基＞</p> <p>・【学習活動】ストロボ写真や動画を用いた等加速度運動の解析をとおして等加速度運動の性質について考察させ、グループ内で発表させる。</p>

内 容		具体的な到達目標	
		<基礎>レベル	<応用>レベル
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取れない単語や未知の語句があっても、絵や写真を参考にして、内容を推測するなどして聞き続けることができる。 ・ 事物に対する紹介を聞いて、ワークシートのヒントを参考にしながら、聞き続けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取れない単語や未知の語句があっても、絵や写真を参考にするとともに、前後関係や文脈を考えて、内容を推測するなどして聞き続けることができる。 ・ 事物に対する紹介を聞いて、ワークシートにメモを取るなどして、聞き続けることができる。
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>Part 1 Title ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A samurai (1.) Yokohama in 1859. ・ He was good at speaking (2.), but foreigners in Yokohama didn't understand him. ・ He realized that foreigners were speaking (3.) and he started to learn it. <p>【Titles】</p> <p>ア How Fukuzawa Learned English</p> <p>イ Samurai's Message</p> <p>ウ A Samurai Meets English</p> <p>エ Experience in the US</p> <p>【Words】</p> <p>democracy / Dutch / English</p> <p>experiences / fascinating / friend</p> <p>led / ship / visited</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>Part 1 Title ()</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A samurai (1.) Yokohama in 1859. ・ He was good at speaking (2.), but foreigners in Yokohama didn't understand him. ・ He realized that foreigners were speaking (3.) and he started to learn it. </div>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取りを踏まえて、400 語程度の教科書の文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。 ・ 文章を読み取るための語句や、文法事項を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 聞き取りを踏まえて、400 語程度の教科書の文章を読んで、概要や要点を捉えることができる。 ・ 文章を読み取るための語句や、文法事項を理解するとともに、つながりを示す語句に注意しながら、英語の論理展開を理解できる。

内 容		具体的な到達目標	
		<基礎>レベル	<応用>レベル
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の文章を、フレーズ毎に、適切な速度と音量で音読することができる。 ・教科書の文章の内容を理解した後に、簡単な英語の質問に対して、YES/NO 又は単語や語句を用いて答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の文章を、センテンス毎に、適切な速度と音量で音読することができる。 ・教科書の文章の内容を理解した後に、英語の質問に対して、文章で答えることができる。
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. Was Yokohama the only port open to foreign trade in 1859? 2. Did one of Fukuzawa's friends start studying English with him? </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書で扱った話題について、ワークシートやメモなどを利用して、自分の意見を相手に伝えることができる。 	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. Which city was the only port open to foreign trade in 1859? 2. What did one of Fukuzawa's friends start with him? </div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書で扱った話題について、既習の語句や表現を活用して、ワークシートやメモなどを利用して、相手に伝えることができる。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>There are many ways to learn English. How would you like</p> </div>			
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の文章について、ワークシートなどを用いて要約文を完成させることができる。 ・既習の語句や表現、文法事項を活用して、間違ふことを恐れずに、学んだことや経験したことについて 20 語程度の文章で自分の意見を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の文章について、必要な語句や表現等を使って、2～3 文程度の要約文を書くことができる。 ・既習の語句や表現、文法事項を活用して、間違ふことを恐れずに、学んだことや経験したことについて 40 語程度の文章で自分の意見を書くことができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見などを区別して、基礎的な表現を用いて書くことができる。 ・グループでそれぞれの英文を回し読みし、語句や文法などの誤りを正して、読み手にわかりやすい文章に直すことができる。 ・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、英語による言語活動に必要な基本的な文化的背景について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実と意見などを区別して、既習の表現を用いて書くことができる。 ・グループでそれぞれの英文を回し読みし、表現の曖昧さをなくしたり、語句や文法などの誤りを正したりして、読み手にわかりやすい文章に直すことができる。 ・英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、英語による言語活動に必要な基本的な文化的背景について理解する。

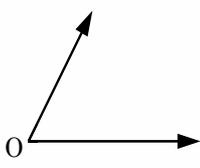
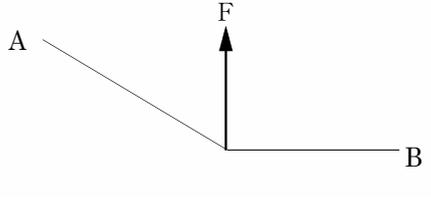
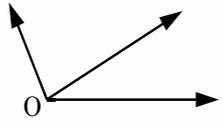
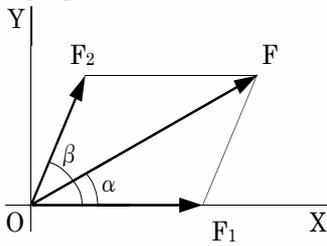
	指導の手立て
<発展>レベル	(学習活動・使用教材・教具等)
<ul style="list-style-type: none"> 教科書の文章全体を、適切な速度と音量で音読することができる。 教科書の文章の内容を理解した後に、英語の質問に対して、根拠を示しながら文章で答えることができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>1. Why did Fukuzawa study English ? 2. Do you want to go abroad? And why?</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 教科書で扱った話題について、既習の語句や表現を活用して、ワークシートやメモなどを利用しながら、その概要をお互いに伝え合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じて、段階的に読みが上達するよう、音読の方法を工夫する。 生徒の実態に応じて、必要な定型表現を提示する。 【学習活動】教師の質問に対して応答する。 <基・応・発>
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>to learn English?</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 5W1Hなど、話すポイントを示すとともに、単語、語句、文章など、生徒の実態に応じてメモを作る際の留意点を伝える。 生徒の実態に応じて、話し合いを続けるための定型表現やまとめ方を提示する。 【学習活動】ペアやグループをつくり、意見を伝え合う。 ペアやグループで話し合った内容をクラス全体に発表する。 <基・応・発> 他のペアやグループの意見に対して質問や意見を述べる。 <発>
<ul style="list-style-type: none"> 教科書の文章について、必要な語句や表現等を適切に使って要約文を書くことができる。 既習の語句や表現、文法事項を活用して、間違ふことを恐れずに、学んだことや経験したことについて根拠を示しながら 80 語程度の文章で自分の意見を書くことができる。 事実と意見などを区別して、既習の表現を適切に用いて論理的に書くことができる。 グループでそれぞれの英文を回し読みし、表現の曖昧さをなくしたり、語句や文法などの誤りを正したりして、論点が明確で読み手にわかりやすい文章に直すことができる。 英語を使用している人々の日常生活、風俗習慣など、英語による言語活動に必要な基本的な文化的背景について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に応じて、文章を書くために必要な定型表現を提示する。 生徒の実態に応じて、事実と意見の区別の方法など文章を書くために必要な定型表現や構成の方法を提示する。 生徒の実態に応じて、文章を校正する際のポイントや、読み手にわかりやすい文章を書くために必要な定型表現等を提示する。 【学習活動】グループをつくり、それぞれの英文を回し読みし、意見や感想を伝え合うとともに、より適切な英文を書く。 <基・応・発> 必要に応じて ICT等を活用しながら、英語を使用している人々の文化的背景について提示する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><育む資質・能力></p> <p>事物に関する紹介を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりするとともに、自分の意見や考えを話したり書いたりする活動をとおして、言語スキルを身に付けるとともに、人間関係形成力、論理的思考力・表現力を身に付ける。 <基・応・発></p> </div>

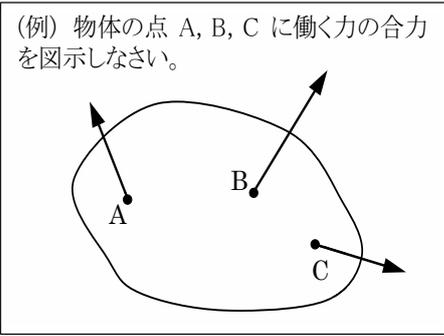
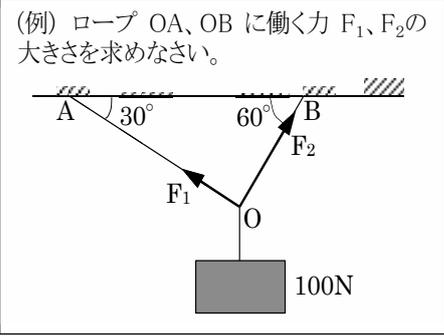
内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
(2) ア 野菜の種類と特徴 野菜の特性と栽培技術	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の特徴に着目し、植物としての分類や利用部位による分類をすることができる。 <p>(例) 次の野菜を植物の科別に分類しなさい。 ダイコン、キュウリ、ネギ、ナス、ニンジン () 科… …</p>	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の特徴を考察し、それぞれの法則性を見つけ、分類することができる。 <p>(例) 次の野菜の共通点を見つけ、分類名を書きなさい。 ダイコン、ニンジン… トマト、ジャガイモ… キュウリ、ナス…</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 主な地域野菜の名称や主な特徴を理解している。 <p>(例) 次の野菜の写真は、加賀野菜の一種である。その名称と主な特徴を書きなさい。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 地域野菜の意義と現況を理解し、説明できる。 <p>(例) 次の野菜の写真は、加賀野菜の一種である。その名称とその特徴を活かした利用方法を説明しなさい。</p> 
イ 野菜の生育と生理	<ul style="list-style-type: none"> 栄養成長期と生殖成長期の違いを理解している。 <p>(例) 野菜の成長過程を2つに分類し、違いが分かるように説明しなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育段階と管理作業を関連づける。 <p>(例) 果菜類の成長過程を2つに分類し、それぞれに必要な管理作業を説明しなさい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 良い種子の条件や発芽の仕組みを理解している。 各器官の形成と発達について共通の仕組みを理解している。 <p>(例) 長日植物と短日植物の違いが分かるように説明しなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 光合成による物質生産の流れを理解している。 <p>(例) 空欄に適当な語句を記入しなさい。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 発芽と環境の関係を理解し、適切な播種の方法を判断できる。 各器官の形成と発達について、適切に生育状況を判断することができる。 <p>(例) 花芽分化に影響する要素について2つあげ、例をあげて説明しなさい。 () 性) … () 性) …</p> <ul style="list-style-type: none"> 光の強さと光合成速度の関係を理解している。 <p>(例) 光補償点と光飽和点についてグラフを図示して説明しなさい。</p>

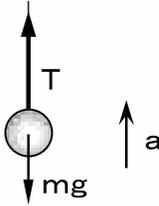
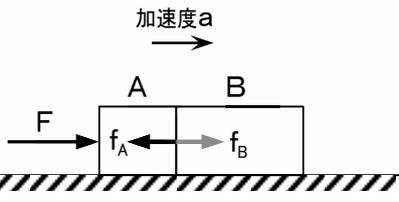
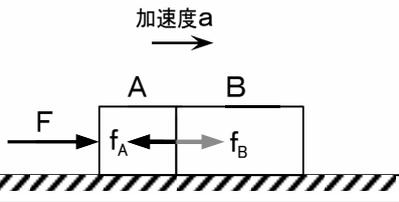
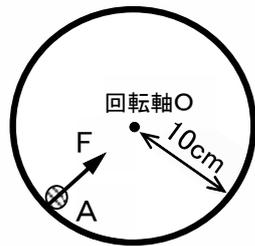
	指導の手立て
<発展>レベル	(学習活動・使用教材・教具等)
<p>・地域野菜生産の課題を見つけ、解決に向けて対策を考えることができる。</p> <p>(例) 次の野菜の消費を拡大させるための課題とそれに対する対策を説明しなさい。</p> 	<p>・収穫された野菜だけでなく、生育中の様子などの画像を ICT の活用により、できる限り様々な野菜のイメージを視覚的に捉えさせる。</p> <p>・圃場で栽培されている野菜については、実際に圃場で観察させ、観察レポートを作成し、その特徴を実感させる。</p> <p>・【学習活動】 グループワークによって野菜分類表を作成し、発表活動を行う。 <基・応・発></p> <p>・地域野菜は、加賀野菜や能登野菜を中心に扱い、外部講師による講演会や見学研修等の機会を設け、地域農業の現状について理解を深める。</p> <p>・【学習活動】 地域野菜についてテーマを決め、全員で様々な意見を出し合い、それらについてグループ内で考察し、まとめ、発表する。 <応・発></p>
<p>・発芽の状況を観察し、その良否を論理的に説明できる。</p> <p>・野菜の生育状況の変化を考察し、栽培環境との関連性を類推することができる。</p> <p>(例) 春まき栽培のハクサイが早期抽だいし、収穫できなかった。その理由を説明しなさい。</p> <p>・光合成と野菜の生育管理の関連について適切に判断できる。</p> <p>(例) 果菜類は、光合成を促進するように栽培管理を行うと収量が上がらない。この原因を説明しなさい。</p>	<p>・ICTを活用し、写真や図表、実物を利用するとともに、積極的に圃場へ外向き、生育過程や生理的な特徴を視覚的に捉えさせる。</p> <p>・野菜の生育段階に応じた管理実習を確実にを行い、座学と実習の連携を深め、関連性を体験的に習得させる。</p> <p>・【学習活動】 学校で栽培されている野菜について、グループで生育過程や管理作業が分かる図表を作成し、概要を発表し、全体で情報を共有する。 <基・応・発></p> <p>・様々な種子の観察や条件を変えた発芽試験を通して、科学的な視点を持たせ、論理的な考察をさせる。 <発></p> <p>・各器官の部位の名称や用語については、図表、写真だけではなく、圃場で実際に栽培されている植物体でも確認し、その後の学習でも答えられるようにする。</p> <p>・圃場での野菜の生育状況を観察し、光合成がどのように影響を与えているかを考えさせるようにする。 <応・発></p>

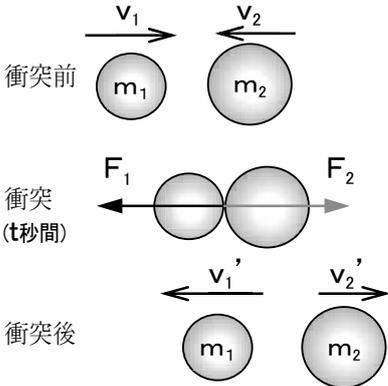
内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
ウ 栽培環境と生育の調節	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育について栽培環境の重要性を理解している。 野菜の栽培について適切に栽培環境を調節する技術を理解している。 <p>(例)レタスやセルリーの栽培で夏場に強い光を抑えるためにどのような工夫をすればよいか答えなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育を調節するために栽培環境条件をどのようにすればよいかを見通すことができる。 <p>(例) トマトやスイカの栽培床にマルチングをすることでどのような効果が得られるか答えなさい。</p>
エ 人工環境における栽培技術	<ul style="list-style-type: none"> 施設を利用した栽培について、その種類や特徴を理解している。 <p>(例)施設栽培において換気の方法にはどのようなものがあるか答えなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 養液栽培について、その種類や特徴を理解している。 環境に配慮した野菜栽培の意義を理解している。 <p>(例)野菜の養液栽培は露地栽培と比較してどのような点が優れているか説明しなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設を利用した栽培について、適切に環境制御の方法を判断することができる。 <p>(例)塩類が集積した土壌を改良するための方法にはどのようなものがあるか説明しなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 養液栽培を適切に管理する技能を身につけている。 環境に配慮した野菜栽培について、その仕組みについて説明することができる。 <p>(例)野菜の養液栽培の利点をあげ、露地栽培との違いを説明しなさい。</p>

	指導の手立て
<発展>レベル	(学習活動・使用教材・教具等)
<ul style="list-style-type: none"> 生産性を向上させるため、栽培環境を制御し、野菜の生育を調節することを論理的に考察し、提案できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生育が栽培環境によって影響を受けたり調節されることを身近な話題と関連づけたり ICT を活用し、視覚的に捉えさせる。 実習レポートやワークシートに栽培環境と生育状況の調節に関する考察を記入する項目を設け、座学での学びと実際の状況の確認をさせる。 <基・応・発> 【学習活動】栽培環境制御による生育調節の具体事例を提示し、グループ内で、事例の考察を行い、事例の解説を発表する。 <応・発>
<ul style="list-style-type: none"> 施設を利用した栽培の課題を見つけ、解決する手立てを提案することができる。 <div data-bbox="225 947 703 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 県内のトマトの施設栽培において課題となっていることは何か。また、その対策としてどのような対策が考えられるか説明しなさい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 養液栽培の管理上の課題を見つけ解決する手立てを提案することができる。 環境に配慮した野菜の栽培計画を作成、提案することができる。 <div data-bbox="225 1406 703 1518" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 植物工場を作る際の留意点を挙げなさい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な人工環境による栽培技術の知識を理解した上で、実際の施設を見学し、内容の理解を深める。 圃場がない施設については、写真や図表を使い、視覚的に理解させる。 【学習活動】圃場内や近隣農家の温室等を見学し、その特徴や課題について話し合い、発表する。 <基・応・発> 養液栽培の栽培記録や実際の施設を様々な観点で考察させ、それらの中から生産性を向上させる手立てについて話し合い、発表したり、報告書にまとめさせる。 【学習活動】植物工場の事例や実際の施設を見学し、その特徴や課題について考察し、発表する。 <基・応・発> <div data-bbox="762 1514 1390 1771" style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p><育む資質・能力> 野菜の生産と経営の学習を通して、野菜生産が、豊かな食生活を提供する社会的役割を理解し、品質や生産性の向上を図るための基礎的な能力を身につけるとともに、課題発見・解決力、批判的思考力を身につけ、持続可能な未来づくりへの責任を自覚する。</p> </div>

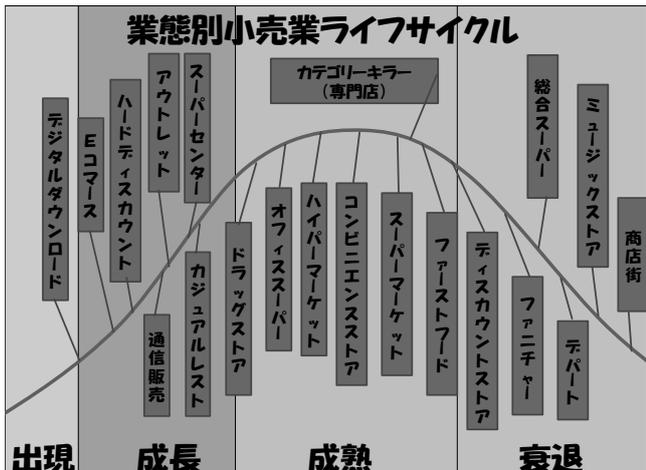
内 容		具体的な到達目標	
		<基礎>レベル	<応用>レベル
(1) 機 械 と 設 計	機械が機構と機械要素から成り立っていること及び生産における設計の役割を扱う	<ul style="list-style-type: none"> ・機械の定義を理解している。 ・機械要素の定義を理解している。 ・機械要素を分類して例示できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・標準化の長所を理解している。 ・標準化に係る規格を例示できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・製品仕様から出発して機械設計を進める流れを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械と器具の違いを説明できる。 ・機械を構成する部品を、機械要素とその他の部品に分類できる。 ・機械要素と機構を関係づけることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・機械設計を機能設計と生産設計に分けて理解している。 ・良い機械を追究することができる。
(2) 機 械 に 働 く 力	<p>ア 機械に働く力と運動</p> <p>機械に働く力と運動に関する基本的な法則及び具体的な事例を通して基本的な計算方法を扱う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・力を表現するには、「大きさ」「向き」「作用点」を用いることを理解している。 ・1点に働く複数の力を合成することができる。 <div data-bbox="454 1272 901 1608" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の力の合力を図示しなさい。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの力を二つ以上の力に分解し図示することができる。 <div data-bbox="454 1736 901 2072" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の力FをA、Bの方向に分解し、図示しなさい。</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・三つ以上の力を合成する場合、加える順序を変えても同様の結果となることを理解している。 ・力の多角形を用いて合成できる。 <div data-bbox="957 1281 1404 1617" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 次の力の合力を図示しなさい。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの力を二つ以上の力に分解し計算で分力を求めることができる。 <div data-bbox="957 1736 1404 2072" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) $\alpha=30^\circ$ $\beta=70^\circ$ のとき次の力F=100Nの分力F₁、F₂の大きさを求めなさい。</p>  </div>

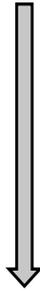
<p><発展>レベル</p>	<p>指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・機械、器具、構造物を関係づけることができる。 ・機械要素がなぜ必要かについて多面的に理解している。 ・標準数を標準化の基準とすることで、どのようなメリットがあるか理解している。 ・機械設計の実際の手順は、概念設計→基本設計→詳細設計をたどることを理解している。 ・設計コンセプト、コスト・性能のバランス等を踏まえた設計作業を見とおすことができる。 	<p>【学習活動】 自転車を構成する部品を列挙し、 自転車だけに使われている部品 多くの機械に共通して使われている部品 に分類する。そして、次の問いについて考える。</p> <p>問1 自転車は機械か？(根拠を示して) 問2 機械要素だったらよいと思う部品はどれか？(理由を添えて) (パフォーマンス課題) <基・応・発></p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <育む資質・能力> 機械要素の必要性を、自転車の構成部品を分類・検討する学習活動を通して学ぶことで、論理的思考力を身に付ける。 </p>
<ul style="list-style-type: none"> ・作用点によって力の効果が異なること、力は作用線上で移動しても力の効果が変わらないことを理解している。 ・作用点の異なる複数の力を合成できる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) 物体の点 A, B, C に働く力の合力を図示しなさい。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・力のつり合いの状態を踏まえて分力を求めることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例) ロープ OA, OB に働く力 F_1, F_2 の大きさを求めなさい。</p>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・この内容項目では物体に力を作用させても物体が変形しないと仮定して考えることを伝える。 ・三角比を用いた計算は、三角関数に深入りせずに計算技能として育む。 <p>【学習活動】 物体に働いている複数の力を合成する。個人で短時間考えた後、4人程度のグループごとにミニホワイトボード上に手書きで合力を記入する。そして、グループの代表者が合成方法を、根拠を添えて説明する。 <基・応・発></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 作用線が重なる、複数の力の合成 (2) 作用線が交わる、複数の力の合成 (3) 作用線が交わり作用点の異なる、複数の力の合成

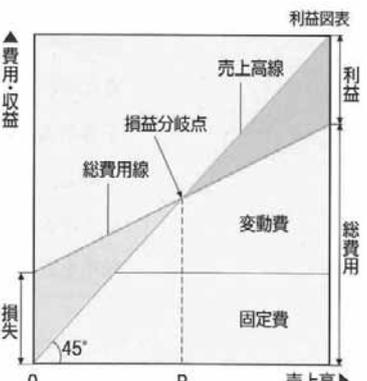
内 容	具体的な到達目標	
	<基礎>レベル	<応用>レベル
	中 略	
	<ul style="list-style-type: none"> 運動の第2法則について、具体例を挙げて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 物体に働く力の合力が0でない場合、物体には合力と同じ向きの加速度が生じる。その加速度の大きさは合力の大きさに比例し物体の質量に反比例することを理解している(運動の第2法則)。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(例) 質量$m=0.5\text{kg}$の物体を糸に吊し、加速度$a=5.2\text{m/s}^2$で上昇させているとき、糸の張力Tを求めなさい。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> 力Fは単独では存在できず必ずペア(対)になって存在し、ペアの力は、力Fを及ぼした物体の中にあり力Fと逆向きで大きさが等しい。以上が静止・運動のいかんを問わず常に成立することを理解している(運動の第3法則)。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(例) 滑らかな水平面上に、質量が3kgの物体Aと質量5kgの物体Bが接している。図のように物体Aに3Nの力Fが水平に作用しているとき、AがBに及ぼす力f_Bを求めなさい。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> 等速円運動の速度、加速度などの値を算出することができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(例)</p> <ol style="list-style-type: none"> 旋盤の主軸の回転速度が1000min^{-1}のとき、外径30mmの工作物の周速度を求めなさい。 旋盤で直径60mmの丸棒を80m/minの周速度で削りたい。旋盤の主軸の回転速度と角速度を求めなさい。 直径500mmの円周上を角速度5rad/sで円運動するのに必要な向心加速度を求めなさい。 </div>
	<ul style="list-style-type: none"> 運動の第3法則について、具体例を挙げて説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 力Fは単独では存在できず必ずペア(対)になって存在し、ペアの力は、力Fを及ぼした物体の中にあり力Fと逆向きで大きさが等しい。以上が静止・運動のいかんを問わず常に成立することを理解している(運動の第3法則)。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>(例) 滑らかな水平面上に、質量が3kgの物体Aと質量5kgの物体Bが接している。図のように物体Aに3Nの力Fが水平に作用しているとき、AがBに及ぼす力f_Bを求めなさい。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> 等速円運動をしている物体には向心力が作用していることを理解している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 脱水機のドラムが1800min^{-1}で等速円運動している。ドラムの側壁に質量0.2kgの小さな洗濯物Aが接しているとき、Aがドラムの側壁から押し返される力Fを求めなさい。</p>  </div>

<p><発展>レベル</p>	<p>指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<p>・物体同士の間には内力は働くが外力が作用しない場合、運動量の総和は一定に保たれることを説明できる（運動量保存の法則は作用反作用の法則を別な形で表現したものであることを見とおしている）。</p> <div data-bbox="240 1137 687 1637" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 運動の第3法則から出発し、運動の第2法則を用いて運動量保存の法則を導きなさい。</p>  <p>衝突前 v_1 v_2 m_1 m_2</p> <p>衝突 (t秒間) F_1 F_2</p> <p>衝突後 v_1' v_2' m_1 m_2</p> </div>	<p>・機械設計に役立てることを主目的とし、「運動」では、運動状態の表現や解析に重きを置かず、様々な運動状態で物体にどのような力が作用するのかを把握できるようにする。</p> <p>・「力のつり合い」と「作用反作用の法則」を明確に区別できるように指導する。</p> <p>力のつり合い…<u>一つの物体</u>に複数の力が作用しその合力が0ということ</p>  <p>作用・反作用…<u>二つの物体</u>が相手に作用を及ぼしあうこと</p>  <p>【学習活動】物体に働いている力を、作用点に注意しながら全て図示する。図示した力について、「力のつり合い」、及び「作用・反作用」の関係について説明する。 <基・応・発></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><育む資質・能力></p> <p>様々な状態の物体にどのような力が働くかを、力を図示し各力の関係を表現する活動を通して学ぶことで、論理的思考力を身に付ける。</p> </div>

内 容		具体的な到達目標	
		<基礎>レベル	<応用>レベル
(1) 現代市場とマーケティング 現代市場とマーケティングの考え方や内容が変化してきたこと及び消費者保護や法令遵守など現代市場における企業の社会的責任を扱う [学習指導要領解説] 我が国における生産・流通・消費の動向、人口動態など市場環境の変化、消費者志向や社会志向などマーケティングの考え方や内容の変化及び様々な分野でマーケティングが重要となっている現状について理解させる。また、消費者保護や環境問題への対応、法令遵守など、現代市場における企業の社会的責任について理解させる。 教 第1章	[現代市場の特徴] 現代市場における消費、生産、流通の3つの動向と市場のメカニズムの基本について理解している。 (1)現代市場のメカニズム 市場の基本的な概念 (2)消費の動向 消費に影響を与える、社会経済や消費生活の基本的な事項 (3)生産の動向 技術革新と市場生産方式について基本的な事項 (4)流通の動向 現代市場の特徴について基本的な事項 [マーケティングの発展] マーケティングの基本的な内容を理解し、現代市場においてマーケティングが必要な理由について説明できる。 (1)マーケティングの発展 ・マーケティングの理念 (2)マーケティングコンセプトの変遷 生産志向→販売志向→消費者志向→社会志向 (3)小売店の視点での顧客満足(CS) 実現 ・よい商品 (コンセプト) ・よいサービス (フォロー) ・よい店舗 (立地・規模・施設・清潔)	[現代市場の特徴] 消費、生産、流通それぞれの動向についてトピック的な事例と共に説明することができる。 (1)現代市場のメカニズム 市場の特徴について、需要と供給の関係性 (2)消費の動向 消費の二極化とその背景について (3)生産の動向 サービス経済化とその時代背景 (4)流通の動向 寡占市場や規制緩和等、価格形成に関する事項 [マーケティングの発展] マーケティングの役割と変化、その時代背景について説明することができる。 (1)マーケティングの発展 ・ニーズ、ウォンツ、需要 (2)マーケティングコンセプトの変遷 消費者志向のマーケティングを中心としたマーケティングコンセプトの変遷 (3)顧客満足(CS) の実現及び次代の顧客満足について ・hospitality ・entertainment ・privilege	
	<input type="checkbox"/> 教科書準拠の問題集、ワークシート、等により基本的な用語の定着を図る。 (例) ①マーケティングコンセプトの変遷について発生順に4つあげなさい。 ②非営利分野にも適用されるようになったマーケティングを何というか	<input type="checkbox"/> 新しいコンセプトが必要になった背景について話合わせ、思考の深化と理解の定着を図る。 (例) ①4つのマーケティングコンセプトが発生した要因について話合ってみよう。 ②ソーシャルマーケティングの中でNPO法人について調べてみよう。	

<p><発展>レベル</p>	<p>指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p>
<p>[現代市場の特徴] 国内市場の飽和と企業の対応について、その動向を分析、発表することができる。</p> <p>(1)現代市場のメカニズム 市場の特徴について、ニーズ、ウォンツという視点で、具体例をあげる</p> <p>(2)消費の動向 消費者の4つの権利とコンシューマリズムについて説明する</p> <p>(3)生産の動向 バブル景気とその崩壊について市場メカニズムを踏まえて説明する</p> <p>(4)流通の動向 流通のシステム化について、実例をあげて説明する</p>	<p>【学習活動】 小売業の移り変わりについて、各業態のライフサイクルを元にマーケティング学習の全体像について話合う <応用・発展></p> <p>【使用教材】 業態別小売業ライフサイクル</p>  <p>業態別小売業ライフサイクル</p> <p>出現 成長 成熟 衰退</p> <p>デジタルダウンロード、Eコマース、ハードディスクカウント、アウトレット、スーパーセンター、通信販売、カジュアルレスト、ドラッグストア、オフイススーパー、ハイパーマーケット、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、ファーストフード、ティスカウントストア、ファニチャー、総合スーパー、ミュージックストア、テパート、商店街</p>
<p>[マーケティングの発展] ソーシャルマーケティングにおける、企業の社会的責任(CSR)の意義について、具体的な事例をあげて説明することができる。</p> <p>(1)マーケティングの発展 ・企業の社会的責任 (CSR)</p> <p>(2)マーケティングコンセプトの変遷 社会志向の考え方が起こってきた背景について説明する ・Ecological Marketing ・De-Marketing ・Orderly Marketing</p> <p>(3)顧客満足 (CS) と顧客のロイヤルティについて、具体例をあげて考察し、説明する</p> <p>□ 具体的な事例を調べさせ、説明させることにより、新しい概念について深く理解させる。</p> <p>(例) ①新しい顧客満足の1つである privilege について事例をあげて説明しなさい。 ②フェアトレードが推進されている背景について説明しなさい。</p>	<p>(分析の対象例)・eコマースの発展、デジタルダウンロード、アマゾン・楽天 vs Yahooの参入 ⇒ 出店料無料化戦略 ・バーチャルショップ・モール、オンラインショップ、通信販売 などの無店舗経営</p> <p>【教具】 ・最新の統計データ、PC (EXCEL)、PAD</p> <p>【学習方法】 SWOT分析をグループで行い特徴を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①業態別のライフサイクルの概要説明 ②各業態の変遷を理解させる ③スポットを当てた業態のSWOT分析</p> </div> <p>【関連する科目等】 ・ビジネス情報 ・ビジネス経済 ・ビジネス経済応用</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><育む資質・能力> マーケティングの中核的な要素の一つである小売業の形態について理解し、有効なマーケティング活動について考える事のできる人材を育成する。</p> </div>

内 容		具体的な到達目標	
		<基礎>レベル	<応用>レベル
(4) 商品計画	<p>ア 販売計画と販売予測</p> <p>販売計画の必要性、販売計画の立案及び売上高の予測方法を扱う</p> <p>[学習指導要領解説]</p> <p>販売計画と販売予測の意義と必要性、販売計画の立案の手順、市場需要を測定する方法及び売上高を予測する方法について理解させる。</p>	<p>[販売予測]</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売予測の代表的な方法について理解し、基本的な特徴を説明することができる <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(1) 意見収集法 顧客の意見の収集・分析</p> <p>(2) 売上高実績法 時系列分析法</p> <p>(3) 市場指数法 需要に影響を与える要素</p> <p>※限定市場（テスト・マーケット）、モニターによる調査についてもふれる。</p> </div>	<p>[販売予測]</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売予測の代表的な3つの方法について、計算式等を用いて説明することができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(1) 意見収集法 アンケートの活用による販売予測</p> <p>(2) 売上高実績法 対前年比の平均を求め売上見込み高を計算</p> <p>(3) 市場指数法 市場指数法による計算</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> $\frac{\text{予測年度}}{\text{基準年度}} \times \text{指数} \cdots = \text{対基準年度比}$ $\frac{\text{基準年度売上高}}{\text{対基準年度比}} = \text{売上見込高}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>※ 総市場需要の推定</p> $Q = n \times q \times p$ <p>Q: 総市場需要 n: 特定の商品市場の消費者数 q: 平均的消費者が1年間に購入する数量 p: 平均単価</p> </div>
		<p>[販売計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売計画の立案と実施、統制について基本的な流れと用語を説明することができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(1) 販売計画の立案</p> <p>① 売上目標高の設定 トータルマーケティング 限界利益</p> <p>② 販売予算の編成 売上高予算、売上原価予算、販売費予算</p> <p>③ 販売割当の設定</p> <p>(2) 販売計画の実施と統制 販売統制 損益分岐点</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>□ 教科書準拠の問題集、ワークシート、販売士問題集等により用語の定着を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>(例)</p> <p>① 販売予測の代表的な手法を3つ上げ、説明しなさい。</p> <p>② 限界利益について、例をあげて説明しなさい。</p> <p>③ 販売割当にはどのような効果があるか説明しなさい。</p> </div>	<p>[販売計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> 利益図表による損益分岐点の分析について、基本的な知識と計算式について説明することができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> $\text{損益分岐点(売上高)} = \frac{\text{固定費}}{1 - \frac{\text{変動費}}{\text{売上高}}}$ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> $\text{目標売上高} = \frac{\text{固定費} + \text{希望営業利益}}{1 - \text{変動費率}}$ </div> <p>□ 場面を限定したオリジナル演習問題により計算式の定着を図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>(例)</p> <p>① 次のデータ（固定費・変動費・売上高）により、損益分岐点を計算しなさい。</p> <p>② 過去7年間売上高の推移から折れ線グラフを作成し、次年度の販売予測を行いなさい。</p> </div>

	指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)																																
<p style="text-align: center;">＜発展＞レベル</p> <p>【販売予測】</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売予測の3つの方法を活用し、具体的な事例を上げながら、最善の販売計画について説明することができる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(1) 意見収集法 根拠のある意見の見極めとデータの分析を総合的に行う</p> <p>(2) 売上高実績法 実際の企業データからグラフを作成し、販売予測を行う</p> <p>(3) 市場指数法 指数の在り方について理解し、根拠に基づいた重みを設定する</p> </div>	<p style="text-align: center;">指導の手立て (学習活動・使用教材・教具等)</p> <p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実在する会社のデータを分析し、利益の向上につながる販売計画と販売予測をすることにより、知識・技能の定着を図るとともに、その活用力を高める。＜応・発＞ <p>【使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の企業の損益計算書から損益分岐点と限界利益を計算し、費用の削減と利益の向上策について考える。 <table border="1" data-bbox="778 678 1378 994"> <thead> <tr> <th></th> <th>昨年度</th> <th>A案</th> <th>B案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>売上高(S)</td> <td>17,500</td> <td>17,500</td> <td>17,500</td> </tr> <tr> <td>固定費(F)</td> <td>1,500</td> <td>減少</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>変動費(V)</td> <td>14,700</td> <td>14,700</td> <td>減少</td> </tr> <tr> <td>変動比率</td> <td>84.00%</td> <td>84.00%</td> <td>**、**%</td> </tr> <tr> <td>限界利益率</td> <td>16.00%</td> <td>16.00%</td> <td>**、**%</td> </tr> <tr> <td>損益分岐点</td> <td>9,375</td> <td>*,***</td> <td>*,***</td> </tr> <tr> <td>損益分岐点比率</td> <td>53.57%</td> <td>**、**%</td> <td>**、**%</td> </tr> </tbody> </table> <p>A案 固定費の引き下げ（従業員給料の引き下げ等） B案 変動費の引き下げ（売上原価の引き下げ等）</p>		昨年度	A案	B案	売上高(S)	17,500	17,500	17,500	固定費(F)	1,500	減少	1,500	変動費(V)	14,700	14,700	減少	変動比率	84.00%	84.00%	**、**%	限界利益率	16.00%	16.00%	**、**%	損益分岐点	9,375	*,***	*,***	損益分岐点比率	53.57%	**、**%	**、**%
	昨年度	A案	B案																														
売上高(S)	17,500	17,500	17,500																														
固定費(F)	1,500	減少	1,500																														
変動費(V)	14,700	14,700	減少																														
変動比率	84.00%	84.00%	**、**%																														
限界利益率	16.00%	16.00%	**、**%																														
損益分岐点	9,375	*,***	*,***																														
損益分岐点比率	53.57%	**、**%	**、**%																														
<p>【販売計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 損益分岐点と限界利益について利益図表を活用し、事例を上げて説明することができる。 <div data-bbox="255 1288 710 1713" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">  <p>利益図表</p> <p>▲費用収益</p> <p>▲利益</p> <p>▲総費用</p> <p>▲売上高線</p> <p>▲総費用線</p> <p>▲損益分岐点</p> <p>▲変動費</p> <p>▲固定費</p> <p>▲損失</p> <p>▲売上高</p> <p>▲45°</p> <p>▲0</p> <p>▲P</p> </div> <p>□ 具体的な事象について、利益図表を作成させ、販売予測等について説明させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(例)</p> <p>①実際の企業の損益計算書から、利益図表を作成し、損益分岐点を求めなさい。</p> <p>②グループ内で役割分担を行い、組織で行う販売計画と販売予測について考えてみよう。</p> </div>	<p>【教具】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際の企業の損益計算書データ、PC (EXCEL) <p>【学習方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働して問題解決をするという視点で、最初からグループ活動の形態をとる。 企業において販売計画を行う際に行われるデータ分析の手段や計画を行う組織について話し合い、シュミレートしてみる。グループ内での効果的な役割分担についても考える。 <p>【関連する科目等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原価計算（直接原価計算） ビジネス情報（ビジネス計算） 日本商工会議所販売士検定2級 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>＜育む資質・能力＞</p> <p>調査した売上データの販売分析を組織で行い、活用することのできる人材を育成する。</p> </div>																																

石川県高等学校
「学びの力」向上アクションプラン

策 定 平成 27 年 3 月

発 行 平成 27 年 3 月

発行者 石川県教育委員会事務局学校指導課

〒920-8575 金沢市鞍月1丁目1番地

TEL : 076-225-1826

FAX : 076-225-1832